

---

2022（令和4）年度  
事業報告書

2022

# 目次

## 教学マネジメント体制の確立

～内部質保証の実質化に向けた教学マネジメント推進体制～

## 内部監査体制の充実

～多彩なバックボーンを持つ外部有識者を招聘～

## 第一 法人の概要

1. 基本情報
2. 建学の精神
3. 学校法人の沿革
4. 設置する学校・学部・学科等
5. 学校・学部・学科等の学生数の状況
6. 収容定員充足率
7. 役員の概要
8. 評議員の概要
9. 教職員の概要
10. その他

## 第二 事業の概要

1. 主な教育・研究の概要
2. 中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況

## 第三 財務の概要

1. 決算の概要
2. その他
3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

S  
T  
U  
D  
E  
N  
T  
S  
C  
O  
M  
M  
U  
N  
I  
T  
Y

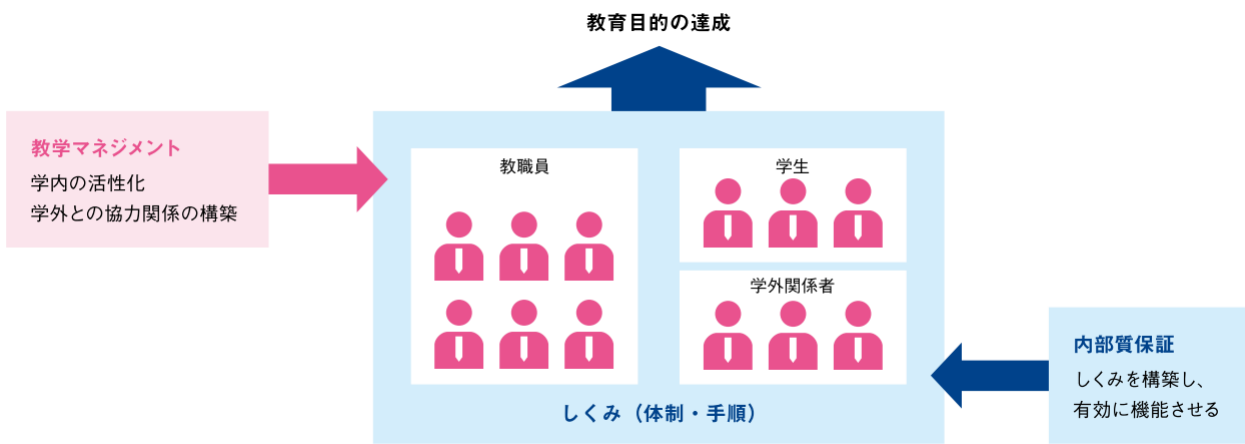
# 教学マネジメント体制の確立

～内部質保証の実質化に向けた教学マネジメント推進体制～

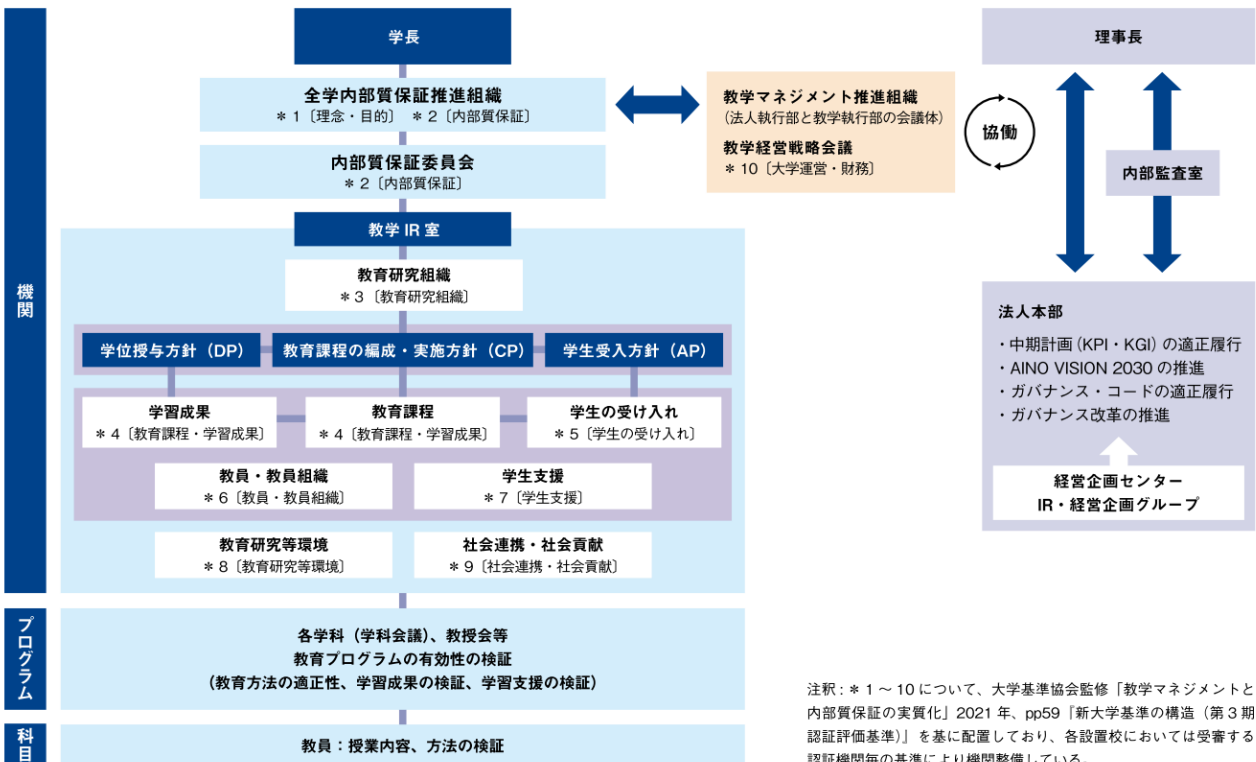
## 教学マネジメント体制の確立

～内部質保証の実質化に向けた教学マネジメント推進体制～

学校法人藍野大学は、建学の精神、教育理念、ミッションステートメントを実現していくために、教育、研究、社会貢献、管理運営・財務の諸活動について、中長期計画をもとに学校法人のガバナンス改革を含むPDCA サイクルを機能させ、持続可能な質的水準の向上と内部質保証の実質化を推進するべく「内部質保証・教学マネジメント推進体制」を2022年1月に再編し、同年4月より実装させています。



学校法人藍野大学設置校における内部質保証・教学マネジメント推進体制 概念図



注釈：\*1～10について、大学基準協会監修「教学マネジメントと内部質保証の実質化」2021年、pp59「新大学基準の構造（第3期認証評価基準）」を基に配置しており、各設置校においては受審する認証機関毎の基準により機関整備している。

# 教学マネジメント体制の確立

～ 内部質保証の実質化に向けた教学マネジメント推進体制～

## 「教学マネジメント指針」概要

予測困難な時代を生き抜く自律的な学修者を育成するためには、学修者本位の教育への転換が必要。  
そのためには、教育組織としての大学が教学マネジメントという考え方を重視していく必要。

### 教学マネジメントとは

- 大学がその教育目的を達成するために行う管理運営であり、大学の内部質保証の確立にも密接に関わる重要な営みである。
- その確立に当たっては、教育活動に用いることができる学内の資源（人員や施設等）や学生の時間は有限であるという視点や、学修者本位の教育の実現のためには大学の時間構造を「供給者目線」から「学修者目線」へ転換するという視点が特に重視される。

### 教学マネジメント指針とは

- 学修者本位の教育の実現を図るための教育改善に取り組みつつ、社会に対する説明責任を果たしていく大学運営すなわち教学マネジメントがシステムとして確立した大学運営の在り方を示す。
- ただし、教学マネジメントは、各大学が自らの理念を踏まえ、その責任でそれぞれの実情に応じて構築すべきものであり、本指針は「マニュアル」ではない。
- 教育改善の取組が十分な成果に結びついていない大学等に対し、質保証の観点から確実に実施されることが必要と考えられる取組等を分かりやすく示し、その取組を促進することを主眼に置く。
- 本指針を参照することが最も強く望まれるのは、学長・副学長や学部長等である。また、実際に教育等に携わる教職員のほか、学生や学費負担者、入学希望者をはじめ、地域社会や産業界といった大学に関わる関係者にも理解されるよう作成されている。

出典：令和2年1月22日文科科学省 中央教育審議会 大学分科会「教学マネジメント」指針より

学長のリーダーシップの下、学位プログラム毎に、以下のような教学マネジメントを確立することが求められる。

### 三つの方針

「卒業認定・学位授与の方針」(DP)、「教育課程編成・実施の方針」(CP)、「入学者受入れの方針」(AP)  
教学マネジメントの確立に当たって最も重要なものであり、学修者本位の教育の質の向上を図るための出発点

#### IV (FD・SD、教学IR) 教学マネジメントを支える基盤

##### I 「三つの方針」を通じた学修目標の具体化

- 学生の学修目標及び卒業生に最低限備わっている能力の保証として機能するよう、DPを具体的かつ明確に設定

##### II 授業科目・教育課程の編成・実施

- 明確な到達目標を有する個々の授業科目が学位プログラムを支える構造となるよう、体系的・組織的に教育課程を編成
- 授業科目の過不足、各授業科目の相互関係、履修順序や履修要件について検証が必要
- 密度の高い主体的な学修を可能とする前提として、授業科目の精選・統合のみならず、同時に履修する授業科目数の絞り込みが求められる
- 学生・教員の共通理解の基盤や成績評価の基点として、シラバスには適切な項目を盛り込む必要

##### III 学修成果・教育成果の把握・可視化

- 一人一人の学生が自らの学修成果を自覚し、エビデンスと共に説明できるようにするとともに、DPの見直しを含む教育改善にもつなげてゆくため、複数の情報を組み合わせる多角的に学修成果・教育成果を把握・可視化
- 大学教育の質保証の根幹、学修成果・教育成果の把握・可視化の前提として成績評価の信頼性を確保

- DPに沿った学修者本位の教育を提供するために必要な望ましい教職員像を定義
- 対象者の役割・経験に応じた適切かつ最適なFD・SDを、教育改善活動としても位置付け、組織的かつ体系的に実施
- 教学マネジメントの基礎となる情報収集基盤である教学IRの学内理解や、必要な制度整備・人材育成を促進

##### V 情報公表

- 各大学が学修者本位の観点から教育を充実する上で、学修成果・教育成果を自発的・積極的に公表していくことが必要
- 地域社会や産業界、大学進学者といった社会からの評価を通じた大学教育の質の向上を図る上でも情報公表は重要
- 積極的な説明責任を果たすことで、社会からの信頼と支援を得るという好循環の形成が求められる

積極的な説明責任

社会からの信頼と支援

シラバス、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、ナンバリング、キャップ制、重複回数授業、アクティブ・ラーニング、主専攻・副専攻

「大学全体」レベル

「学位プログラム」レベル

「授業科目」レベル

ルーブリック、GPA、学修ポートフォリオ

I～Vの取組を、大学全体、学位プログラム、授業科目のそれぞれのレベルで実施しつつ、全体として整合性を確保。

学位プログラム共通の考え方や尺度(アセスメントプラン)に則り、大学教育の成果を点検・評価

# 内部監査体制の充実

～多彩なバックボーンを持つ外部有識者を招聘～

## 内部監査員 アドバイザリー・ボードメンバー（外部有識者）の委嘱

学校法人藍野大学は、2022年4月に理事長直轄の組織として内部監査室を設置し、多彩なバックボーンを持つ外部有識者をメンバーに招聘しました。

健全な学校運営及び組織の発展に資することを目的として、直接の利害をもたない中立的な第三者が監査に入ることによって、私立学校法改正を視野に幅広い関係者の意見の反映を期待しています。

本学は様々な分野において経験豊かな外部人材を内部監査員として登用することで、組織の機能強化（全学的な監査意識・コンプライアンス意識の向上）に取り組み、高等教育機関として価値創出力のさらなる拡大を追求しています。



内部監査室の具体的な活動内容をご紹介します。

## 内部監査室キックオフミーティング

2022年6月29日、2022年度「内部監査室キックオフミーティング」をオンライン開催し、内部監査員の先生方からは、本学の将来構想計画『AINO VISION 2030』を視野に入れた教育活動、研究活動、社会貢献等について専門的知見による意見交換をいただきました。



## 第1回内部監査員会議

2022年8月24日、第1回内部監査員会議をハイブリッド方式\*で行いました。主に私学法改正を踏まえた、内部監査の役割や方向性・目的などを確認し、内部監査規程の改善ポイント等を示していただきました。

\*外部有識者は対面型会議方式、内部有識者はZoomによるWEB会議方式



第1回内部監査員会議の様子（アルカディア市ヶ谷 私学会館 6F・霧島にて）

### 議題

#### 1. 学校法人藍野大学における内部監査について

- (1) 監査及び評価、助言・勧告、報告・提言
- (2) 法令適合性・適正性から有効性・効率性・経済性へ
- (3) 業務監査・会計監査からガバナンスの監査へ

#### 2. 今、求められている内部監査について

- (1) 令和4年度改正私立学校法施行
- (2) 内部監査員の役割と求められる観点

#### 3. これからの内部監査はどうあるべきかについて

- (1) 発展を阻害しかねないリスクのヘッジ
- (2) 学校法人藍野大学 ガバナンス・コード【第1版】
- (3) 「守りの監査」と「攻めの監査」

#### 4. 学校法人制度に関する意見交換

# 内部監査体制の充実

～多彩なバックボーンを持つ外部有識者を招聘～

## 内部監査員による実査

2022年11月26日、中間決算のタイミングに合わせて、臨時監査として内部監査員による実査が行われ、学校法人藍野大学内部監査規程の定めにより監査結果を報告しました。

監査対象は、学校法人藍野大学及び子会社（株式会社藍野大学事業部）における全ての業務であり、監査目的は、令和4年度中間期における学校法人藍野大学の業務に関する決定及び執行が関係する法令、諸規程に基づき行われているかの適正性を検証しました。

監査の総評としては、「現時点で学校法人藍野大学の業務及び会計の執行状況について、特段の疑義は見当たらず、適正な状態である」と重要な問

題は確認されませんでした。また、「専門職大学について具体的な赤字解消の方策を検討する必要がある」や、「株式会社藍野大学事業部について、事業部の重要な意思決定に関しては取り扱いや規程の制定を検討する必要がある」等、学校法人ガバナンス改革に向けた貴重な提言を得ることができました。



## 公開シンポジウム

2022年11月27日、本学の内部監査員（兼アドバイザーボードメンバー）の先生方が一堂に会し、“私立大学を取り巻く諸情勢～私立大学の社会的価値～”をメインテーマに公開シンポジウムを開催しました。

学校法人のガバナンス改革の法制度化に向けた動きや、2023年度からの大学設置基準の改正等を踏まえ、これからの大学運営はどうあるべきなのか、参加いただいた大学の皆さまが、自律的かつ主体的な大学改革の知見を見出す場となりました。



公開シンポジウムの様子（大阪茨木キャンパスにて）

## 三様監査

学校法人藍野大学の管理運営制度の充実のために、三様監査による監査体制の向上を図っています。

### 1.（学校法人）監事監査

令和2年4月1日施行、改正私立学校法による監事制度の改善に伴い、理事・理事会への以下の牽制機能の充実を求めています。

- ・業務監査
- ・財産状況監査
- ・監査報告書の作成・提出（事業計画・事業報告書及び財務状況）
- ・不正行為の報告（不正等の場合の）評議員会の招集請求
- ・理事会への出席・意見陳述

### 2.独立監査人監査

私立学校振興助成法に基づく監査については、監査法人の公認会計士による監査チームを構成し、会計監査を実施します。

### 3.内部監査室監査

内部監査機能の改善を図り、業務監査（内部監査規程第4条第1項（1）・内部監査実施要項第3条第1項一関係）会計監査（内部監査規程第4条第1項（2）・内部監査実施要項第3条第1項二関係）及び事務部門の業務全般に関する監査を実施します。

学校法人藍野大学における三様監査は学校法人監事、独立監査人及び内部監査室による連携・協力を図るために、三者による情報交換・意見交換を行い、監査業務に役立てています。



# 第一 法人の概要

## 第一 法人の概要

### 1. 基本情報

- (1) 法人の名称 学校法人 藍野大学
- (2) 主たる事務所及び従たる事務所の住所、電話番号、FAX 番号、ホームページアドレス等
- ①法人事務局 大阪府茨木市高田町 1-22  
http://www.aino.ac.jp/ TEL.072-621-3764 / FAX.072-621-3756
- ②藍野大学 大阪府茨木市東太田 4-5-4  
http://univ.aino.ac.jp/index2.php TEL.072-627-1711 / FAX.072-627-1753
- ③びわこリハビリテーション専門職大学 滋賀県東近江市北坂町 967  
http://aino.ac.jp/professional/ TEL.0749-46-2311 / FAX.0749-46-2313
- ④藍野大学短期大学部  
大阪茨木キャンパス 大阪府茨木市太田 3-9-25  
http://col.aino.ac.jp/index2.html TEL.072-626-2361 / FAX.072-621-1901  
大阪富田林キャンパス 大阪府富田林市青葉丘 11-1  
https://www.aino-jc.jp/otc/ TEL.072-366-1106 / FAX.072-366-1107
- ⑤藍野高等学校 大阪府茨木市東太田 4-5-11  
http://high.aino.ac.jp/ TEL.072-627-1796 / FAX.072-627-1797
- ⑥明浄学院高等学校 大阪府大阪市阿倍野区文の里 3-15-7  
https://www.meijo.ed.jp/ TEL. 06-6623-0016 / FAX.06-6627-1165

### 2. 建学の精神

「愛智精神 [Philo-sophia] にもとづく人間教育」

この建学の精神にもとづき、人間愛と知性と情操を高め、継続的な自己研鑽を基礎に深い探究心をもった医療従事者の養成に努めています。

### 3. 学校法人の沿革

1968年4月1日	医療法人恒昭会 藍野病院附属准看護学院 指定
1975年4月1日	医療法人恒昭会 藍野病院附属高等看護学院 指定
1978年4月1日	医療法人附属を藍野看護専門学校に変更、藍野看護専門学校 看護専門課程・看護高等課程 設置
1979年9月1日	(準) 学校法人藍野学院 創立、藍野看護専門学校 設置者変更
1983年3月31日	藍野看護専門学校を藍野医療技術専門学校に名称変更
1985年4月1日	藍野学院短期大学 開学
1986年3月31日	藍野医療技術専門学校看護高等課程准看護科 廃止
1988年3月31日	藍野医療技術専門学校医療専門課程看護科(2年課程) 廃止
1990年4月1日	藍野医療技術専門学校医療専門課程看護学科(2年課程定時制) 設置
1993年4月1日	藍野学院短期大学専攻科(地域看護学専攻) 設置
1993年4月1日	藍野医療技術専門学校看護学科2年課程 定時制から全日制へ変更
1994年4月1日	藍野医療技術専門学校医療秘書・病院管理学科を医療福祉ビジネス学科に名称変更
1996年4月1日	滋賀医療技術専門学校(看護学科、理学療法学科、作業療法学科) 開校
1996年4月1日	藍野医療技術専門学校名を藍野医療福祉専門学校に名称変更

# 第一 法人の概要

1996年4月1日	藍野医療福祉専門学校介護福祉学科 設置
1999年4月1日	藍野医療福祉専門学校医療福祉ビジネス学科 廃止
2001年7月9日	藍野短期大学に藍野加齢医学研究所を附置
2003年4月1日	藍野学院短期大学別科（留学生別科） 設置
2004年4月1日	藍野大学（看護学科、理学療法学科、作業療法学科） 開学
2007年4月1日	藍野学院短期大学看護学科を第一看護学科に名称変更
2007年4月1日	藍野学院短期大学第二看護学科（3年課程） 設置
2007年4月1日	藍野学院短期大学附属藍野高等学校（衛生看護科） 開校
2008年4月1日	藍野大学医療保健学部看護学科 教職課程認定（高等学校教諭一種（看護）・養護教諭一種）
2010年4月1日	藍野大学医療保健学部臨床工学科 設置
2011年3月31日	藍野学院短期大学留学生別科 廃科
2012年3月31日	藍野医療福祉専門学校 廃止
2012年4月1日	藍野大学医療保健学部看護学科 3年次編入学定員変更（20名→5名）
2012年4月1日	滋賀医療技術専門学校理学療法学科 入学定員変更（40名→80名）
2012年4月1日	藍野学院短期大学を藍野大学短期大学部に、藍野学院短期大学附属藍野高等学校を藍野高等学校に名称変更
2013年4月1日	藍野大学短期大学部専攻科（地域看護学専攻）が、独立行政法人大学評価・学位授与機構の定める要件を満たす専攻科としての認定を受ける
2014年4月1日	藍野高等学校衛生看護科 入学定員変更（80名→100名）
2015年4月1日	藍野大学大学院看護学研究科 設置
2016年4月1日	藍野大学再生医療研究所を藍野大学中央研究施設に改組
2017年4月3日	株式会社藍野大学事業部（学校法人100%出資会社） 設立
2017年9月15日	学校法人藍野学院を学校法人藍野大学に名称変更
2018年4月1日	藍野大学医療保健学部看護学科入学定員変更（80名→90名）、3年次編入学定員（5名→2名）
2018年4月1日	キャリア開発・研究センターを藍野大学の附置機関とする
2018年9月1日	メディカル・ヘルスイノベーション研究所を藍野大学短期大学部の附置機関とする
2019年3月4日	滋賀医療技術専門学校 募集停止（2019年度生からの募集を中止）
2020年4月1日	びわこリハビリテーション専門職大学 開学
2020年4月1日	藍野大学医療保健学部看護学科入学定員変更（90名→115名）、理学療法学科入学定員変更（80名→90名）
2020年4月1日	藍野高等学校衛生看護科 入学定員変更（100名→120名）
2020年4月1日	藍野高等学校衛生看護科にメディカルサイエンスコースを開設
2020年4月1日	メディカル・ヘルスイノベーション研究所に「あいの発達支援リハビリ訪問看護ステーション」を開設
2020年8月20日	学校法人明浄学院が運営する明浄学院高等学校を支援すべく支援契約を締結
2021年3月31日	滋賀医療技術専門学校 廃止
2022年4月1日	明浄学院高等学校を学校法人明浄学院から学校法人藍野大学の設置校へ変更

## 4. 設置する学校・学部・学科等

学校	学部（研究科）	学科
藍野大学大学院	看護学研究科	—
藍野大学	医療保健学部	看護学科・理学療法学科・作業療法学科・臨床工学科
びわこリハビリテーション専門職大学	リハビリテーション学部	理学療法学科・作業療法学科
藍野大学短期大学部	—	第一看護学科・専攻科・第二看護学科
藍野高等学校	—	衛生看護科
明浄学院高等学校	—	普通科

## 5. 学校・学部・学科等の学生数の状況（2022年5月1日現在）

学校種・学部	学 科	入学定員	入学者数	編入学定員	収容定員	現員数
藍野大学大学院	看護学研究科	6	7	—	12	16
藍野大学 医療保健学部	看護学科	115	123	2	439	459
	理学療法学科	100	118	—	380	429
	作業療法学科	40	40	—	160	171
	臨床工学科	40	33	—	160	168



# 第一 法人の概要

	計	295	314	2	1,139	1,227
びわこリハビリテーション専門職大学リハビリテーション学部	理学療法学科	80	83	—	240	207
	作業療法学科	40	28	—	120	77
	計	120	111	—	360	284
藍野大学短期大学部	第一看護学科	100	124	—	200	269
	専攻科	40	39	—	40	39
	第二看護学科	80	93	—	240	291
	計	220	256	—	480	599
藍野高等学校	衛生看護科	120	150	—	360	375
明浄学院高等学校	普通科	200	163	—	600	304
合計		961	1,001	2	2,951	2,805

## 6. 収容定員充足率（毎年度5月1日現在）

学校種・学部	学 科	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
藍野大学大学院	看護学研究科	1.17	1.00	1.08	1.00	1.33
藍野大学医療保健学部	看護学科	1.20	1.17	1.08	1.07	1.05
	理学療法学科	1.18	1.12	1.13	1.14	1.13
	作業療法学科	1.12	1.13	1.18	1.09	1.07
	臨床工学科	1.06	1.03	1.01	1.05	1.05
	計	1.16	1.12	1.10	1.09	1.08
びわこリハビリテーション専門職大学リハビリテーション学部	理学療法学科	—	—	0.55	0.83	0.86
	作業療法学科	—	—	0.35	0.64	0.64
	計	—	—	0.48	0.76	0.79
藍野大学短期大学部	第一看護学科	1.13	1.05	0.96	1.17	1.35
	専攻科	1.03	1.00	1.00	1.00	0.98
	第二看護学科	1.23	1.19	1.16	1.18	1.21
	計	1.17	1.12	1.06	1.16	1.25
藍野高等学校	衛生看護科	0.96	1.04	1.03	0.98	1.04
明浄学院高等学校	普通科	—	—	—	—	0.51
合計		1.05	1.06	1.02	1.05	0.95

## 7. 役員の概要（2022年5月1日現在）

役員・評議員の定員数、氏名、就任年月日、常勤・非常勤の別、業務執行・非業務執行の別、主な現職等

職名	定数	現員	氏名	就任年月日 (重任年月日)	常勤・非常勤	業務執行・非業務執行	主な現職等	
理事	第1号	1人	1人	佐々木恵雲	2014年4月1日 (2020年4月1日)	常勤	業務執行	学校法人藍野大学 一貫教育担当常務理事 藍野大学 学長
	第2号	1人	1人	山川正信	2020年4月1日	常勤	業務執行	学校法人藍野大学 総務担当常務理事 びわこリハビリテーション専門職大学 学長
	第3号	1人	1人	足利学	2022年4月1日	常勤	業務執行	藍野大学短期大学部 学長
	第4号	1人	1人	志熊博忠	2021年4月1日	常勤	業務執行	藍野高等学校 校長
	第5号	4人以上 6人以内	6人	小山英夫	2000年11月6日 (2021年4月1日)	常勤	業務執行	学校法人藍野大学 理事長
			鷲見光博	2016年11月28日 (2019年11月28日)	常勤	業務執行	学校法人藍野大学 財務担当常務理事	
			山本嘉人	2014年4月1日	常勤	業務執行	学校法人藍野大学 副理事長	

# 第一 法人の概要

	第6号	1人	1人		(2021年4月1日)			びわこリハビリテーション専門職大学 学長補佐
				清水達郎	2020年4月1日	非常勤	業務執行	東洋興産株式会社 代表取締役
				奥晃	2021年7月26日	非常勤	業務執行	医療法人恭昭会 法人本部長
				渡邊雅彦	2022年4月1日	常勤	業務執行	明浄学院高等学校 校長
監事	2人	2人	岡山栄雄	2011年7月26日 (2021年4月1日)	非常勤	業務執行	中央総合会計事務所所長 税理士	
			中務未樹	2015年4月1日 (2021年4月1日)	非常勤	—	ブランシュ法律事務所 代表弁護士	
				堀江亮司	2015年4月1日 (2021年4月1日)	非常勤	—	堀江公認会計士・税理士事務所 公認会計士・税理士

2022年度においては、本法人は役員賠償責任保険契約を締結しました。(役員賠償責任保険契約の適用対象となり得る事案は発生しておりません) なお、本法人は2022年度においては、どの役員とも責任限定契約は締結していません。

## 【役員賠償責任保険契約の概要】

保険会社等：日本私立大学協会（団体契約者）、東京海上日動火災保険株式会社（引受保険会社）

被保険者：契約期間に在任していた役員及び評議員並びに本法人

保険料：538千円、支払限度額：2,000,000千円

支払対象とならない主な場合：法律違反に起因する対象事由等

補償内容の詳細

- (1) 役員（個人被保険者）に関する補償：法律上の損害賠償金、争訟費用等
- (2) 記名法人に関する補償：法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用等

## 8. 評議員の概要（2022年5月1日現在）

評議員の定員数、氏名、就任年月日、主な現職等

職名	定数	現員	氏名	就任年月日 (重任年月日)	常勤・非常勤	主な現職等	
評議員	第1号	1人	1人	佐々木恵雲	2014年4月1日 (2020年4月1日)	常勤	学校法人藍野大学 一貫教育担当常務理事 藍野大学 学長
	第2号	1人	1人	山川正信	2020年4月1日	常勤	学校法人藍野大学 総務担当常務理事 びわこリハビリテーション専門職大学 学長
	第3号	1人	1人	足利学	2022年4月1日	常勤	藍野大学短期大学部 学長
	第4号	1人	1人	志熊博忠	2021年4月1日	常勤	藍野高等学校 校長
	第5号	3人以上 4人以内	4人	渡邊雅彦	2022年4月1日	常勤	明浄学院高等学校 校長
				後藤昌弘	2017年4月1日 (2021年4月1日)	常勤	藍野大学医療保健学部 学部長
				酒井浩	2018年4月1日 (2021年4月1日)	常勤	藍野大学医療保健学部作業療学科 学科長
				井出千束	2018年4月1日 (2021年4月1日)	常勤	びわこリハビリテーション専門職大学リハビリテーション学部作業療学科 教授
	第6号	2人	2人	信岡研身	2012年4月1日 (2021年4月1日)	非常勤	医療法人恒昭会藍野病院 看護部長
				本多容子	2018年4月1日 (2021年4月1日)	常勤	藍野大学医療保健学部看護学科 学科長
	第7号	10人以上 13人以内	13人	大村卓司	2015年4月1日 (2021年4月1日)	非常勤	茨木市議会議員
				小山英夫	1996年5月30日 (2021年4月1日)	常勤	学校法人藍野大学 理事長
				佐藤基	2022年4月1日	非常勤	藍野高等学校 学事顧問 明浄学院高等学校学事顧問
岡山栄雄				2011年7月26日 (2021年4月1日)	非常勤	中央総合会計事務所所長 税理士	

# 第一 法人の概要

				鷲見光博	2016年11月28日 (2019年11月28日)	常勤	学校法人藍野大学 財務担当常務理事
				山本嘉人	2014年4月1日 (2021年4月1日)	常勤	学校法人藍野大学 副理事長 びわこリハビリテーション専門職大学 学長補佐
				青山弘義	2012年4月1日 (2021年4月1日)	常勤	藍野大学短期大学部第一看護学科 特任教授
				飯田英晴	2018年4月1日 (2021年4月1日)	常勤	藍野大学短期大学部 副学長
				足利学	2018年4月1日 (2021年4月1日)	常勤	藍野大学短期大学部第一看護学科 学科長
				河合まゆみ	2018年4月1日 (2021年4月1日)	常勤	藍野大学短期大学部第二看護学科 学科長
				小林正明	2018年4月1日 (2021年4月1日)	常勤	学校法人藍野大学 法人事務局 事務局長
				奥晃	2021年7月26日	非常勤	医療法人恭昭会 法人本部長
				泉谷富貴子	2022年4月1日	常勤	明浄学院高等学校 事務センター長
				清水達郎	2020年4月1日	非常勤	東洋興産株式会社 代表取締役

## 9. 教職員の概要（2022年5月1日現在）

### (1) 教職員数（派遣職員は除く）

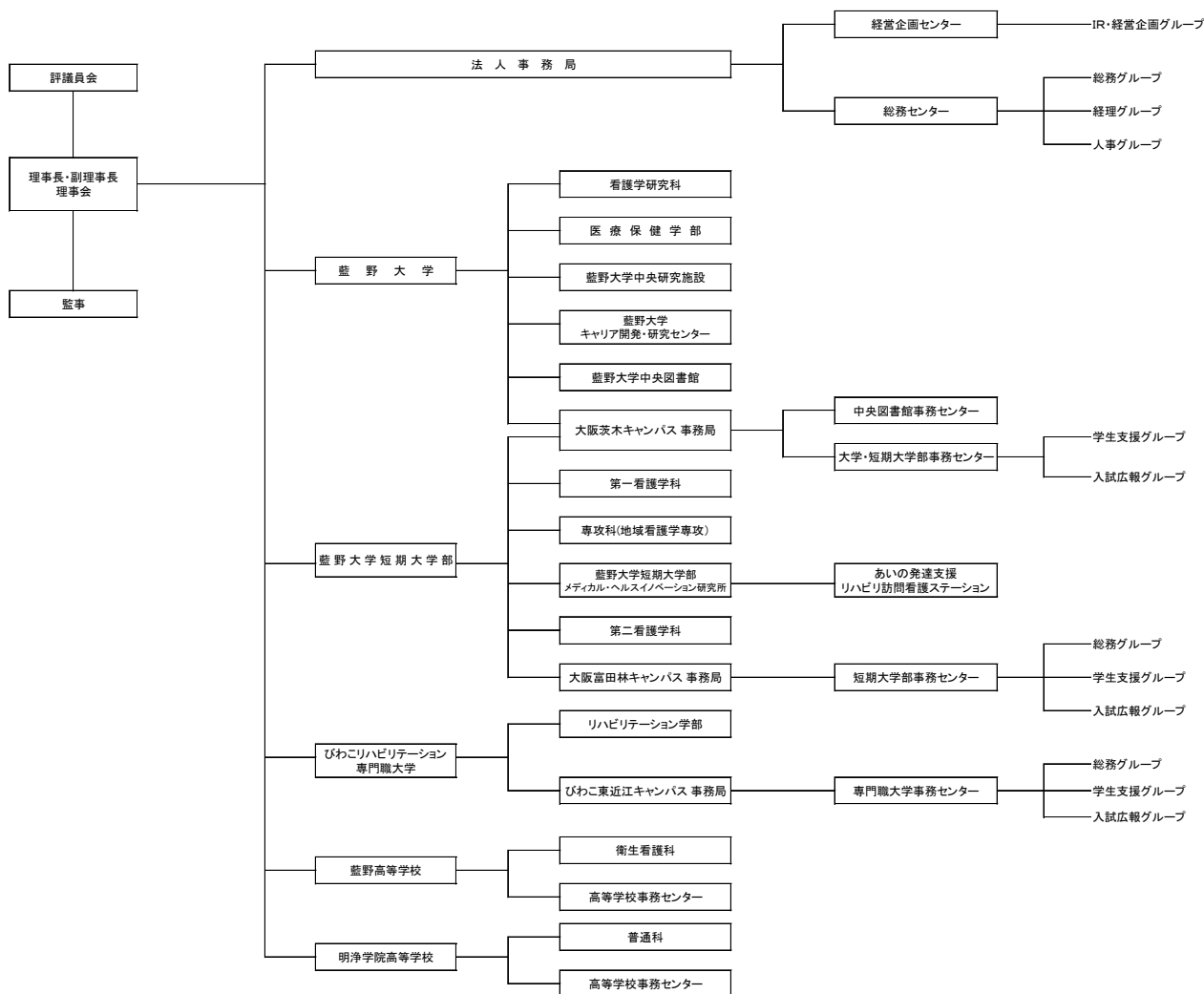
区分		法人事務局	藍野大学	びわこリハビリテーション専門職大学	藍野大学短期大学部	藍野高等学校	明浄学院高等学校	計
教員	本務	0	92	44	47	21	33	237
	兼務	0	100	50	88	24	21	283
職員	本務	20	22 (内、図書館4)	14	14	3	3	54
	兼務	2	5	11	2	2	10	32
計	本務	20	114	58	61	24	36	313
	兼務	2	105	61	90	26	31	315

### (2) 平均年齢

区分		法人事務局	藍野大学	びわこリハビリテーション専門職大学	藍野大学短期大学部	藍野高等学校	明浄学院高等学校	計
教員	本務	—	49.8	54.2	52.6	43.7	39.2	49.1
職員	本務	39.8	39.5	40.6	45.3	46.3	46.3	41.4

# 第一 法人の概要

## 10. その他 系列校の状況 (2022年5月1日現在)



# 第二 事業の概要 (3つのポリシー)

## 第二 事業の概要

本法人では、高等教育機関全体として、18歳人口の減少に伴う規模の縮小や学校経営上の困難といった厳しい事態が生じていることに危機感を持ちつつも、生涯学習ニーズの高まりにより従来型の学生像にとらわれず、社会人学生等幅広い年齢層の積極的な受け入れも視野に入れ、高等教育に対する新しい需要に対応できる学校運営を目指しています。

特に本法人では、「Saluti et solatio aegrorum (病める人々を医やすばかりでなく慰めるために)」という心の通った医療サービスの提供を意味する教育理念のもと、ガバナンスの強化や規程の整備などの管理運営の改善はもちろんのこと、運営基盤の安定化に努めるとともに、現代社会が求める「地域に密着し、心の通った安心できる医療の提供」に応えることができる人材の育成及び教育研究活動を積極的に取り組んでおります。2022年度に取り組んだ主な事業について以下、報告します。

### 1. 主な教育・研究の概要

#### (1) 藍野大学の3つのポリシー

##### ①卒業の認定に関する方針

###### 【医療保健学部】

医療保健学部では、教育目標に照らし、学部および学科で定めた以下のような能力・資質を身につけることを、卒業認定、および、学士の学位授与の方針とする。各学科で定めた卒業要件単位の修得をもって、系統的な履修にもとづく学位授与方針の達成とみなす。

###### I. 知識

医療の基礎的知識に加えて、人や文化、社会情勢、科学技術、環境等に関する基本的な教養を習得している。

###### II. 技能

知識、技術、情報を活用、発信する実践力、コミュニケーション力を体得し、専門職者として科学的根拠に基づいた対応ができる。

###### III. 態度・姿勢

医療人および社会人として必要な倫理観、行動力を備え、生涯学び続けることで日進月歩の医療知識を職務に反映しようとする心構えができています。

###### IV. 協創

医療に関わる全ての人と、調和的、創造的な問題解決が遂行できる。

###### 【看護学科】

###### I. 知識

・医療人の基盤となる保健・医療・福祉に関する幅広い知識を備え、看護学を理解するために必須となる医学的知識ならびに看護実践に求められる看護の専門知識を習得している。

・国内外の文化や思想、社会の仕組みや社会情勢について学び、良き市民として生きるための豊かな教養として幅広い知識を習得している。

###### II. 技能

・看護実践能力を養うために必要となる論理的・批判的思考を基盤とした臨床的な推論、ならびにコミュニケーション能力やリスク管理能力を包括する看護の専門技能を習得している。

・信頼できる情報源から必要な情報を収集・分析・評価し、適切な解釈のもとで論理的・批判的思考を基盤としたアカデミックな議論ができる。

###### III. 態度・姿勢

・責任のある言動がとれるとともに、多様な個人の価値観に対応できる倫理観を持っている。

・新しい医療の発展に関心を持ち、研究・探求しようとする態度と、科学的根拠に基づいた思考をする姿勢を身につ

け、新たな知識や技能を生涯学び続ける意志を持っている。

###### IV. 協創

・多職種を理解することで自身の専門性を知り、チームで協働的な問題解決を進める際にメンバー間で生じる葛藤を乗り越え、問題に対する解決策を考えることができる。

・看護分野の発展に寄与するために、自身の問題意識からアカデミックな探求ができる。

###### 【理学療法学科】

###### I. 知識

・理学療法を実践するための専門的知識を習得している。

・新しい理学療法学を創造するための基盤となる幅広い科学的知識、人や文化、社会情勢などの知識を習得している。

###### II. 技能

・理学療法を実践するための専門的スキルを習得している。

・アカデミックなテーマを議論するための情報収集、分析、解釈ができ、科学的根拠に基づいて論理的に考える能力を習得している。また、職業生活、社会生活などで必要なコミュニケーション・情報リテラシー・論理的思考力、問題解決力を習得している。

###### III. 態度・姿勢

・理学療法士および社会人として必要な倫理観、行動力を備え、新たな知識や技能への関心と主体的に生涯学び続ける意思を持つことができる。

・科学的根拠に基づいて研究・探究しようとする態度を習得している。また、自律した学習者として自身の学習を振り返りながら、あらゆる問題に対して探究する態度を習得している。

###### IV. 協創

・多職種を理解することで自身の専門性を知り、チームで協働的な問題解決を進める際にメンバー間で生じる葛藤を乗り越え、問題に対する解決策を考えることができる。

・理学療法分野の発展に寄与するために、自身の問題意識からアカデミックな探求ができる。

###### 【作業療法学科】

###### I. 知識

・作業療法を理解・実践するため、専門的知識と医療・保健・福祉に関する幅広い知識を習得する。

・多様な文化・価値観を理解するため、幅広く豊かな教養を習得する。

###### II. 技能

・対象者への作業療法に必要な情報を選択・収集するとともに、適切な評価・再評価を行うことができ、その結果を

## 第二 事業の概要 (3つのポリシー)

もとに理論的な思考をもってアセスメントを組み立てて安全に治療を実践できる。

・望ましい人間関係を構築するためのコミュニケーション能力を有し、科学的モデルを基盤とした論理的主張ができる。

### III. 態度・姿勢

・対象者の立場や価値観を尊重した判断を行うとともに、知識や技術に関して最新の知識・技術を保ち、学術的研鑽および人格の陶冶を目指しながら作業療法に貢献ができる。

・科学と周辺領域の知識を更新し、常に最新の科学的根拠を使った論理的な視点から物事に対処することができる。

### IV. 協創

・多職種を理解することで自身の専門性を知り、チームで協働的な問題解決を進める際にメンバー間で生じる葛藤を乗り越え、問題に対する解決策を考えることができる。

・作業療法分野の発展に寄与するために、自身の問題意識からアカデミックな探求ができる。

### 【臨床工学科】

#### I. 知識

・医療人の基盤となる保健・医療・福祉・工学に関する幅広い知識を備え、臨床工学を理解するために必須となる医工学・情報学の知識と医療機器の操作・管理のための専門知識を習得している。

・国内外の文化や思想、社会の仕組みや社会情勢について学び、良き市民として生きるための豊かな教養として幅広い知識を習得している。

#### II. 技能

・臨床工学技士業務を実践するための専門技能、医療事故を未然に防ぐためのリスク管理能力、患者や医療人と良好な関係を築くためのコミュニケーション能力を習得している。

・情報のリテラシーを身につけ、論理的思考と批判的思考を基盤にアカデミックなテーマについても、適切な情報収集により議論・実践でき、その成果をまとめて情報発信できる。

#### III. 態度・姿勢

・医療の発展に対して常に関心を抱き、探究心を持って問題解決に挑む姿勢を持っている。

・現代の多様な社会における様々な価値観ならびに倫理観を身につけ、科学的な根拠に基づいて思考し責任のある言動がとれる。

#### IV. 協創

・多職種を理解することで自身の専門性を知り、チームで協働的な問題解決を進める際にメンバー間で生じる葛藤を乗り越え、問題に対する解決策を考えることができる。

・臨床工学分野の発展に寄与するために、自身の問題意識からアカデミックな探求ができる。

### ②教育課程の編成及び実施に関する方針

#### 【看護学科】

##### 【編成方針】

看護学科では、ディプロマポリシーを達成するため、教育課程を基礎科目、専門基礎科目、専門科目の3区分で構成し段階的に配置する。各区分は、以下のような目標をもつ授業科目で構成される。

##### A. 基礎科目

(ア) 国内外の文化や思想、社会の仕組みや社会情勢についての知識を得る科目を配置する。

(イ) 医療人の基盤となる幅広い科学知識を得る科目を配置する。

(ウ) 汎用的技能習得のため、フィールドワーク入門、情報科学Ⅰ、Ⅱなどの科目を配置する。

##### イ. 専門基礎科目

(ア) 看護の対象である人間理解に関する知識を学ぶため、医療心理学や医療倫理学などの科目を配置する。

(イ) 健康や医療に関する知識を学ぶため、解剖生理学、病態学などの科目を配置する。

(ウ) 地域の看護や公衆衛生の知識を学ぶため、疫学や公衆衛生学などの科目を配置する。

(エ) 協働的な問題解決能力を習得するため、シンメディカルⅠ～Ⅳを配置する。

##### ウ. 専門科目

(ア) 看護専門職の知識と技能を、基礎から応用の順次性、体系性に沿って習得するため、基礎看護学分野、専門看護学分野、統合看護学分野の科目を段階的に配置する。

(イ) 看護実践に必要な、看護の基本的知識と技能を習得するため基礎看護学分野の科目を配置する。

(ウ) 各年齢層、健康レベル、個人および集団の健康課題等に応じた看護の知識と技能を習得するため、専門看護学分野を配置する。

(エ) 看護専門職者として生涯にわたり継続して学び続け、看護学を論理的、実践的に理解し、質の高い看護を提供できるようになるため、統合看護学分野を配置する。

##### 【実施方針】

教育課程の実施に当たっては、「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」に示された看護実践能力と到達目標をベンチマークに進める。学習方法が身につけられるように、講義・演習ではアクティブラーニングを推進し、実習では「振り返りシート」等を活用した適切なフィードバックを行うことで、講義・演習の学びに統合させる。

##### 【学習成果の評価方法】

(ア) アカデミックな知識や看護専門職の知識に対し、定期試験やレポートにより評価する。

(イ) 汎用的な技能や看護専門職の技能に対し、ルーブリックを活用した実技試験や提出課題、自己評価アンケート、卒業研究をもとに評価する。

(ウ) 医療専門職に必要な態度や姿勢について、関連科目でのレポートや、実習・演習での自己評価アンケート、授業アンケートをもとに評価する。

(エ) チーム共同的な問題解決やアカデミックな探求について、シンメディカルⅠ～Ⅳや卒業研究などの科目でルーブリックや授業アンケートを活用した総合評価を行う。

(オ) 各評価項目に対し、実習・演習や卒業研究においてPEPAなどの評価方法を活用する。

#### 【理学療法学科】

##### 【編成方針】

理学療法学科では、ディプロマポリシーを達成するため、教育課程を基礎科目、専門基礎科目、専門科目の3区分で構成し段階的に配置する。各区分は、以下のような目標をもつ授業科目で構成される。

##### A. 基礎科目

(ア) 良き市民として生きるため、また国内外の文化や思想、社会の仕組みや社会情勢についての知識を得るため、哲学入門、文化人類学、世界の保健医療などの科目を配置する。

(イ) 新しい理学療法学を創造する基盤となる幅広い科学知識を習得するため、数学、物理学、再生医療入門などの科目を配置する。

(ウ) 汎用的技能習得のため、学びの基盤、文章表現法、統計学、コミュニケーション論などの科目を配置する。

##### イ. 専門基礎科目

(ア) 医療人として基盤となる保健・医療・福祉に関する幅広い知識を習得するため、社会保障論、社会福祉論などの科目を配当する。

(イ) 理学療法の基盤となる知識を習得するため、生体構造論、生体機能論、運動学などの科目を配置する。

(ウ) 協働的な問題解決能力を習得するため、シンメディカルⅠ～Ⅳを配置する。

##### ウ. 専門科目

(ア) 理学療法の実践に必要な理学療法学の知識と技能を習得するため、理学療法学概論、理学療法評価学、運動療法学、運動器理学療法学、臨床推論などの科目を配置する。

## 第二 事業の概要 (3つのポリシー)

- (イ) 理学療法学を実践的に学び、理学療法士としての態度や技能を習得するため、臨床実習を各学年に配置する。
- (ウ) 理学療法に関する学術的な問いについて研究し、またアカデミックスキルを習得するため、医療統計学、理学療法学研究法、卒業研究などを配置する。

### [実施方針]

理学療法学プログラムは4年制で、基礎科目、専門基礎科目、専門科目の3つの科目群から構成される。1年次に主に開講する基礎科目は、良き市民として生きるための教養と、医療専門職の基盤となる知識・態度の習得の涵養を重視する。2年次に主に開講する専門基礎科目は、基礎医学の知識と理学療法士としての思考と態度の涵養が中心である。3年次に主に開講する専門科目は、理学療法の治療学の習得と自己省察の期間で、治療学は講義と実習形式で開講する。4年次は、理学療法士としての臨床能力を総合的に育成する期間であり、臨床実習を中心に行う。

学生の興味・関心に合わせて、「国際医療研修」「住環境コーディネーター」などの選択科目も設定されている。また、1年次から4年次まで、4学科合同でシメディカルI～IVを開講し、学内において協働的な問題解決能力、チーム医療を段階的に学ぶ。

### [学習成果の評価方法]

- (ア) 理学療法士としての知識に対しては授業中やコースの終了時に試験またはレポートで評価を行う。
- (イ) 理学療法士としての基本的な技能については実技試験を行う。
- (ウ) 理学療法士として備えるべき倫理・態度については2年次と3年次で実施するOSCE-R(客観的臨床能力試験リフレクション法)の中で評価を行う。
- (エ) 理学療法士としての統合的な臨床能力は、学内におけるOSCE-R(PEPA)でループリックを使って評価を行う。また学外における臨床実習(PEPA)でも評価を行う。
- (オ) 理学療法士としてのプログラム全体での知識の習得については、国家資格試験で評価する。
- (カ) アカデミックな知識・技能、汎用的な技能については、理学療法学研究法、卒業研究で評価を行う。
- (キ) 協働的かつ創造的な問題解決能力については、シメディカル科目の中でループリックを使って評価を行う。

## 【作業療法学科】

### [編成方針]

作業療法学科では、ディプロマポリシーを達成するため、教育課程を基礎科目、専門基礎科目、専門科目の3区分で構成し段階的に配置する。各区分は、以下のような目標をもつ授業科目で構成される。

#### ア. 基礎科目

- (ア) 多様な文化・価値観を理解できる幅広い教養、語学、理系基礎を習得するための科目を配置する。
- (イ) 医療人として求められる基本的態度・倫理観を養い、読解・論理的思考・ライティング・表出などのコミュニケーション力を向上させる科目を配置する。

#### イ. 専門基礎科目

- (ア) 科学的推論過程を根拠とした作業療法の実践を行える能力を習得するための科目を配置する。
- (イ) リハビリテーション理念や人体の構造・機能、心身の発達に関する基礎知識を習得するための科目を配置する。
- (ウ) 作業療法を実施する上で必要となる内科学、神経内科学、整形外科学、精神医学、老年医学など幅広い疾患や障害に関する知識と技術を習得するための科目を配置する。
- (エ) 協働的な問題解決能力を習得するためにシメディカルI～IVを配置する。

#### ウ. 専門科目

- (ア) 作業療法士に必要な専門的知識・技能を習得するため作業療法評価学総論、作業療法評価学演習、作業

療法治療学総論、作業療法治療学演習、作業療法学総合演習などの科目を配置する。

- (イ) 作業療法実践の場において、対象者の人としての尊厳を守り、より良い人間関係を構築したうえで、協力して目標を達成できる能力を養うため、臨床実習を各学年に配置する。
- (ウ) 生涯にわたって学術的探究を行い、自己研鑽するなど、作業療法分野に寄与するための姿勢を養うために作業療法研究法、卒業研究などの科目を配置する。

### [実施方針]

教育課程の実施にあたっては、作業療法士国家試験、臨床実習での実践能力到達目標をベンチマークとして到達度を検証する。各講義科目、演習科目ではアクティブラーニングを推進する。実践能力の到達度の検証については、学内演習科目においても確認を行い、臨床実習での実践的な技能、姿勢、態度の習得につながるように備える。実習科目においては、学内・学外での演習・実習の「振り返り」を重視し、適切なフィードバックを行う中で、学習効果を高める。

### [学習成果の評価方法]

- (ア) 作業療法実践に必要な専門知識に対しては専門基礎および専門科目および総合演習において、定期試験やレポートを通して評価する。
- (イ) アカデミックな知識に対しては基礎科目あるいは専門基礎科目における定期試験やレポートを通して評価する。
- (ウ) 汎用的な技能・態度は、シメディカルI～IV(PEPA)、臨床実習前後で行うOSCE(PEPA)、卒業研究を通して評価する。
- (エ) 作業療法士として求められる専門的な技能は、演習科目(PEPA)、臨床実習または臨床実習前後で行うOSCE(PEPA)を通して評価する。
- (オ) 作業療法士として望まれる態度は、演習科目(PEPA)、保健医療福祉実習、地域作業療法学演習、総合臨床実習および臨床実習前後で行うOSCE(PEPA)を通して評価する。
- (カ) 協働的かつ創造的な問題解決能力については、シメディカルI～IV(PEPA)を通して評価する。

## 【臨床工学科】

### [編成方針]

臨床工学科では、ディプロマポリシーを達成するため、教育課程を基礎科目、専門基礎科目、専門科目の3区分で構成し段階的に配置する。各区分は、以下のような目標をもつ授業科目で構成される。

#### ア. 基礎科目

- (ア) 社会人として豊かな教養を身につけるため、様々な一般教養科目を配置する。
- (イ) 臨床工学を学ぶための基盤を形成するため、工学分野の基礎となる数学、物理学系科目を初年次に配置する。

#### イ. 専門基礎科目

- (ア) 臨床工学を学ぶための基盤知識を習得するため、医学・工学基礎の講義科目と演習科目を配置する。
- (イ) 臨床工学専門科目への導入として、医学、工学、情報学の応用に関する講義・演習・実習科目を配置する。
- (ウ) 協働的な問題解決能力を習得するため、シメディカルI～IVを配置する。

#### ウ. 専門科目

- (ア) 臨床工学の視点から医療に携わるため、医学、工学、情報学の融合領域に関する講義科目を配置する。
- (イ) 臨床工学技士に求められる専門知識・技能を習得するため、医用機器学(計測装置、治療機器、安全管理など)と生命維持装置学(呼吸療法装置、体外循環装置、血液浄化装置など)に関する講義科目と学内実習科目を配置する。
- (ウ) 臨床工学技士としての応用力・実践力を育成するために、臨床実習I～IVを配置する。

## 第二 事業の概要 (3つのポリシー)

(エ) 臨床工学技士として生涯にわたる学習の重要性を認識し、かつ主体的に課題を発掘および解決する姿勢を身につけるために卒業研究を、また、日進月歩に発展する医学・工学や医療機器開発の動向を把握するために臨床工学特論、臨床工学特別演習等の科目を配置する。

### 【実施方針】

教育課程の実施に当たっては、臨床工学技士国家試験や第2種ME技術実力検定試験などをベンチマークとして到達度を検証する。また、アクティブラーニングを積極的に取り入れ、学内・学外の演習・実習の「振り返り」を重視するとともに、医療機器メーカー等で最新の医療機器に接する機会も多く設け、技能の応用力が獲得されたかを検証し、評価する。

### 【学習成果の評価方法】

- (ア) 各科目の成績評価ならびに授業アンケートをもとにして学習成果の達成状況の評価する。
- (イ) 一般教養に関しては基礎科目を、臨床工学分野における医工学の知識に関しては専門基礎科目を中心とした、科目成績評価をもとに学習成果の達成状況の評価する。
- (ウ) 臨床工学技士業務に求められる技能に関しては、臨床実習・学内実習を中心としてPEPA、ルーブリック評価と授業アンケートから学習成果の達成状況の評価する。
- (エ) アカデミック分野における課題抽出ならびにその解決能力と、生涯学習のための技能・態度・姿勢については、卒業研究、臨床工学特別演習などで、ルーブリック評価により学習成果の達成状況の評価する。
- (オ) 臨床工学科カリキュラムを通しては、臨床工学技士国家試験や第2種ME技術実力検定試験などをベンチマークとして学習成果の達成状況の評価する。
- (カ) 臨床工学技士として医療分野に携わりチーム医療を実践するための多職種間連携能力に関しては、シミュレカルI～IVならびに授業アンケートから学習成果の達成状況の評価する。

### ③入学者の受入れに関する方針

#### 【看護学科】

##### ア. 求める学生像

医療保健学部看護学科では、卒業後に看護職として従事することを前提に、医療専門職に求められる知識技能の修得を図り、生命・人間尊重の倫理観や豊かな感性を磨くため、次のような人物を求めています。

- (ア) 医療と看護の重要性について理解がある人【知識・技能】
- (イ) 人々の健康や福祉の向上および活動に関心が高く、周りの人々と協働することができる人【主体性・協働性】
- (ウ) 人の話を聴くことができ、自己の考えを相手にわかるように示せる人【思考力・判断力・表現力】
- (エ) 生物、化学、物理、数学を通じて得られる看護に必要な自然科学的思考力と英語、国語の読解力・言語運用能力を有する人【知識・技能】

##### イ. 入学者選抜の基本方針

本学では以下の方法によって評価・判定を行います。

###### (ア) 総合型選抜入試

資料読解や数式を用いて解答する基礎力テストや小論文において医療人に就く前提となる知識や思考力を測り、グループディスカッションや面接を通して他者との協働性、共感能力、主体性、知性と感性のバランスの取れたコミュニケーション能力などについて評価・判定を行います。

###### (イ) 学校推薦型選抜入試

小論文や英語・国語・数学分野から選択となる基礎学力試験を行います。また、面接において他者との協働性、共感能力、知性と感性のバランスの取れたコミュニケーション能力などについて評価・判定を行います。また知識・技能の観点から、高等学校での学習成績を調査書の

「学習成績の状況」により評価します。

###### (ウ) 一般選抜入試

複数科目からなる個別学力試験では、知識、読解力、思考力、文章表現力について評価・判定を行います。

###### (エ) 大学入学共通テスト利用入試

大学入学共通テストにより、知識、読解力、思考力について評価・判定を行います。

#### 【理学療法学科】

##### ア. 求める学生像

医療保健学部理学療法学科では、卒業後に理学療法士に従事することを前提に、医療専門職に求められる知識・技能の習得を図り、生命・人間尊重の倫理観や豊かな感性を磨くため、次のような人物を求めています。

- (ア) 人々の健康、医療、福祉に関心があり、理学療法士の特性、役割、重要性について理解している人【知識・技能】
- (イ) 自分の言動に責任を持ち、周りの人々と協働することができる人【主体性・協働性】
- (ウ) 人の話をよく聞くことができ、道徳的見地から判断し、かつ、論理的に考え、自分が思っていることを相手に理解できるように説明ができる人【思考力・判断力・表現力】
- (エ) 英語・国語の読解および表現能力があり、教学・生物・物理に関する医療系カリキュラムに適応できる基礎知識を有する人【知識・技能】

##### イ. 入学者選抜の基本方針

本学では以下の方法によって評価・判定を行います。

###### (ア) 総合型選抜入試

資料読解や数式を用いて解答する基礎力テストや小論文、小レポート、テストなどにおいて医療人に就く前提となる知識や思考力を測り、グループディスカッションや面接を通して他者との協働性、共感能力、主体性、知性と感性のバランスの取れたコミュニケーション能力などについて評価・判定を行います。試験内容は、各学科選抜で重視する項目に応じて組み合わせを行い実施します。

###### (イ) 学校推薦型選抜入試

小論文や英語・国語・数学分野から選択となる基礎学力試験を行います。また、面接において他者との協働性、共感能力、知性と感性のバランスの取れたコミュニケーション能力などについて評価・判定を行います。また知識・技能の観点から、高等学校での学習成績を調査書の「学習成績の状況」により評価します。

###### (ウ) 一般選抜入試

複数科目からなる個別学力試験では、知識、読解力、思考力、文章表現力について評価・判定を行います。

###### (エ) 大学入学共通テスト利用入試

大学入学共通テストにより、知識、読解力、思考力について評価・判定を行います。

#### 【作業療法学科】

##### ア. 求める学生像

医療保健学部作業療法学科では、卒業後に作業療法士に従事することを前提に、医療専門職に求められる知識技能の習得を図り、生命・人間尊重の倫理観や豊かな感性を磨くため、次のような人物を求めています。

- (ア) 日本の医療の現状と作業療法の重要性について理解している人【知識・技能】
- (イ) 人々の健康や福祉の向上とそれに向けた活動に関心の高い人【主体性・協働性】
- (ウ) 人の話をよく聞くことができ、論理的に考え、自分が思っていることを相手にわかるように示せる人【思考力・判断力・表現力】
- (エ) 英語・国語の読解力および言語運用能力があり、医療を理解する上での理科系の基礎知識を有する人【知識・技能】

##### イ. 入学者選抜の基本方針

本学では以下の方法によって評価・判定を行います。

###### (ア) 総合型選抜入試



## 第二 事業の概要 (3つのポリシー)

資料読解や数式を用いて解答する基礎力テストや小論文、小レポート、テストなどにおいて医療人に就く前提となる知識や思考力を測り、グループディスカッションや面接を通して他者との協働性、共感能力、主体性、知性と感性のバランスの取れたコミュニケーション能力などについて評価・判定を行います。試験内容は、各学科選抜で重視する項目に応じて組み合わせを行い実施します。

### (イ) 学校推薦型選抜入試

小論文や英語・国語・数学分野から選択となる基礎学力試験を行います。また、面接において他者との協働性、共感能力、知性と感性のバランスの取れたコミュニケーション能力などについて評価・判定を行います。また知識・技能の観点から、高等学校での学習成績を調査書の「学習成績の状況」により評価します。

### (ウ) 一般選抜入試

複数科目からなる個別学力試験では、知識、読解力、思考力、文章表現力について評価・判定を行います。

### (エ) 大学入学共通テスト利用入試

大学入学共通テストにより、知識、読解力、思考力について評価・判定を行います。

## 【臨床工学科】

### ア. 求める学生像

医療保健学部臨床工学科では、卒業後に臨床工学技士に従事することを前提に、医療専門職に求められる知識技能の習得を図り、生命・人間尊重の倫理観や豊かな感性を磨くため、次のような人物を求めています。

(ア) 多くのことに知的好奇心を持ちチャレンジ精神と探究心を持つ人【知識・技能・主体性】

(イ) 責任感があり実行力があり他者を思いやることができる人【主体性・協働性】

## (2) 藍野大学大学院の3つのポリシー

### ①卒業の認定に関する方針

看護学研究科では、教育目標に照らし、以下のような能力・資質を身につけることを、修業認定、及び修士の学位授与方針とする。2年以上在学し、修了に必要な単位を修得し、かつ修士論文を提出して審査に合格し、加えて最終試験に合格した者に修士(看護学)の学位を授与する。

ア. 高い倫理観に基づいた深い学識と識見及び豊かな人間性を持ち、サービスを受ける者の視点に立った実践ができる。

イ. 学際的な視点とリサーチマインドをもって、実践の場での課題を発見し、保健医療福祉に関して深めた知識から、課題解決のための新たなケア技術やシステムの開発を試みることができる。

ウ. 看護専門職者として専門的役割を示すロールモデルとなって、指導力を発揮して教育的役割を果たすことができる。

エ. 保健・医療・福祉のさまざまな領域で看護組織及び看護ケアをマネジメントし、関連多職種と連携し協働することができる。

### ②教育課程の編成及び実施に関する方針

本研究科は、医療技術の発展と少子高齢化の進行に伴い近年急速に高まっている看護サービスの質向上に対する要請に応えるため、高度な専門的知識と技術の上に、深い学識と識見及び豊かな人間性に裏打ちされた看護実践者、看護管理者、教育研究者を養成することを目指した教育課程を編成する。そのため、共通科目には高度な看護実践、管理および教育研究を行う基礎となる科目、保健医療福祉に関する造詣を深め、学際的な視点とリサーチマインドを涵養する科目を配置する。

専門科目では、「成育看護学」「高齢者看護学」「精神看護学」「災害看護学」「地域保健看護学」「看護管理学」「感染管理学」の専門領域ごとに特論科目と演習科目を設

## (3) びわこリハビリテーション専門職大学の3つのポリシー

(ウ) 医学と工学に関心があり医療分野で社会に貢献したいという意欲を持ち、創造的に考え行動しようとする人【思考力・判断力・表現力】

(エ) 数学・物理・化学・生物を通じて得られる数理的・自然科学的思考能力を持ち、国語・英語の読解力を有する人【知識・技能】

### イ. 入学者選抜の基本方針

本学では以下の方法によって評価・判定を行います。

#### (ア) 総合型選抜入試

資料読解や数式を用いて解答する基礎力テストや小論文、小レポート、テストなどにおいて医療人に就く前提となる知識や思考力を測り、グループディスカッションや面接を通して他者との協働性、共感能力、主体性、知性と感性のバランスの取れたコミュニケーション能力などについて評価・判定を行います。試験内容は、各学科選抜で重視する項目に応じて組み合わせを行い実施します。

#### (イ) 学校推薦型選抜入試

小論文や英語・国語・数学分野から選択となる基礎学力試験を行います。また、面接において他者との協働性、共感能力、知性と感性のバランスの取れたコミュニケーション能力などについて評価・判定を行います。また知識・技能の観点から、高等学校での学習成績を調査書の「学習成績の状況」により評価します。

#### (ウ) 一般選抜入試

複数科目からなる個別学力試験では、知識、読解力、思考力、文章表現力について評価・判定を行います。

#### (エ) 大学入学共通テスト利用入試

大学入学共通テストにより、知識、読解力、思考力について評価・判定を行います。

け、習得した知識と技術を統合して研究を行い、併せて修士論文を作成する「特別研究」を配置する。

### ③入学者の受入れに関する方針

ア. 大学院教育を通じてどのような力を発展・向上させるのか

本研究科は、実践看護分野と看護マネジメント分野の2つの分野からなる。実践看護分野では、高度な専門的知識を獲得させ、専門職業人たる看護実践能力を向上させ、研究的思考能力を開発するとともに、人々のニーズを汲み取る感性と豊かな表現力を養う。看護マネジメント分野では、複雑な看護課題を解決するために必要な柔軟な思考力、的確な判断力、高度な専門的知識・技能を獲得させるとともに、研究的思考能力を開発する。

#### イ. 入学者に求める能力は何か

上記ア. を踏まえ、以下の資質、能力を備えた者を入学者として求める。

(ア) 大学卒業程度以上の看護学の基本的な知識・技能を有している人

(イ) 看護学に対する深い関心をもつ人

(ウ) 研究の遂行に必要なコミュニケーション能力、思考力、分析能力及び記述能力のある人

(エ) 高い倫理観のもと、人々の健康のために働く強い意志と協調性をもつ人

(オ) 看護の実践、看護学の教育研究において、自主的に課題を発掘し解決することを志向する人

#### ウ. 入学者に求める能力をどのように評価するのか

入学者の評価は、小論文と面接によって行う。小論文では主に、知識、思考力、分析能力、記述能力について評価する。面接では、看護学に対する関心、コミュニケーション能力、倫理観、協調性、課題解決志向を中心に評価する。

## ①卒業の認定に関する方針

## 第二 事業の概要 (3つのポリシー)

### 【リハビリテーション学部】

本学において所定の期間在学し、学科ごとに定める単位を取得し、次のとおりの能力を身に付けた者に学位を授与する。

- DP01 生命の尊厳と職業倫理を備え、幅広い教養を有し、リハビリテーション専門職としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。
- DP02 地域住民や多職種と円滑なコミュニケーションをとることができ、信頼関係を築くことができる。
- DP03 理論に裏付けられた知識と技術を有し、適切なリハビリテーションを実践することができる。
- DP04 地域及び地域住民が抱える課題を発見することができ、解決するための方法を論理的に考案することができる。
- DP05 専攻分野に関連する他分野について学ぶことで応用力を高め、多職種と連携し理学療法士・作業療法士の新たな展開を創造することができる。

### 【理学療法学科】

理学療法学科では、所定の規則に基づき 131 単位の単位取得及び上記の要件を充たしたうえで、次のような能力・資質を備えた人物に理学療法学士（専門職）の学位を授与する。

- DP01 人を尊び幅広い教養を有し、差別と偏見を持たない倫理感のもと、理学療法士としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。
- DP02 地域住民を取り巻く多職種と必要な信頼関係を築き、円滑なコミュニケーションをもって理学療法を実践することができる。
- DP03 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。
- DP04 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。
- DP05 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。

### 【作業療法学科】

作業療法学科では、所定の規則に基づき 130 単位の単位取得及び上記の要件を充たしたうえで、次のような能力・資質を備えた人物に作業療法学士（専門職）の学位を授与する。

- DP01 作業療法士として生命を尊び、地域住民との関わりを大切にする豊かな人間性と倫理観、幅広い教養を有し、自覚と責任をもって行動し、生涯学び続けることができる。
- DP02 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。
- DP03 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。
- DP04 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。
- DP05 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開に向けて作業療法を活用することができる。

### ②教育課程の編成及び実施に関する方針

#### 【リハビリテーション学部】

リハビリテーション学部の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の5つの方針で編成する。

- CP01 倫理観に基づき人を尊重し、生涯にわたり自己研鑽し、地域住民の社会生活を支援できるようになるための科目を配置する。
- CP02 専門職に必要なコミュニケーション能力を有し、対象者や多職種と良好な対人関係を築くことができるようになるための科目を配置する。
- CP03 専門職として必要な専門的知識と技術を修得し、論理的思考に基づいた問題解決策を考案できるようになるための科目を配置する。
- CP04 自らの専門性を基盤とし、地域住民と地域社会の課題発掘と問題解決を実践できるようになるための科目を配置する。
- CP05 専門領域に関連する専門分野の知識を修得し、地域共生社会の実現に向けて多職種と連携して支援できるようになるための科目を配置する。

#### 【理学療法学科】

理学療法学科の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の5つの方針で編成する。

- CP01 倫理観に基づき生命を尊重し、責任をもって生涯にわたり理学療法士として研鑽を続け、地域住民の社会生活を支援する能力を養うための科目を配置する。
- CP02 理学療法士として必要なコミュニケーション能力を有し、多職種と協調し、連携して地域住民との関係を構築する能力を養うための科目を配置する。
- CP03 理学療法に必要な専門知識と技術を身につけ、科学的かつ論理的思考をもって科学的根拠に基づいた理学療法を実践できる能力を養うための科目を配置する。
- CP04 理学療法の知識・技術を基盤とし、地域住民の生活から地域社会を見渡す広い視野を持ち地域の課題を発掘し、問題解決を実践できる能力を養うための科目を配置する。
- CP05 理学療法に関連する他分野の専門学力を修得し、地域住民の健康で生涯にわたる質の高い生活維持に関して、理学療法の知識や技術を養うための科目を配置する。

#### 【作業療法学科】

作業療法学科の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の5つの方針で編成する。

- CP01 人の生命や価値観や人の暮らし社会を理解できる幅広い教養を有し、医療専門職の意義や役割を理解し学術的に探究できる能力を養うための科目を配置する。
- CP02 多職種と協調・連携するための円滑なコミュニケーション能力を養うための科目を配置する。
- CP03 作業療法士として必要な専門的知識と技術を習得し、地域住民を心身機能、社会活動・参加また環境面から捉える思考方法を身につけ、作業療法を実践できる能力を養うための科目を配置する。
- CP04 人的、作業的、環境的側面から地域生活課題の発見に努め、論理的に課題の構造化を行い、課題解決に向けて実践できる能力を養うための科目を配置する。
- CP05 地域社会への関心をもち関連する分野について理解を深め、地域生活の課題解決にむけて作業療法を応用的・創造的に活用する能力を養うための科目を配置する。

### ③入学者の受入れに関する方針

#### 【リハビリテーション学部】

リハビリテーション学部では、「①高い倫理観と豊かな人間性、理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身につけ、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、適切なリハビリテーションを提供できる人材を養成する。②地域共

## 第二 事業の概要 (3つのポリシー)

生社会の実現に向け、理学療法士・作業療法士として保健・福祉・スポーツ・就労等の分野において、多職種と連携・協力のもと、地域住民及び地域が抱える課題を発見し、解決することのできる創造性豊かな人材を養成する。」ことを養成する人材像として掲げている。

[知識・技能]

AP01 高等学校までに学ぶべき基礎的な知識を有する人。

[主体性・多様性・協調性]

AP02 人を尊重し人に興味を持ち、リハビリテーションの専門職として社会に貢献することに意欲を持つ人。

AP03 良好な対人関係を築くためのコミュニケーション能力を有し、他者と協働して物事を進めることができる人。

[思考力・判断力・表現力]

AP04 客観的に状況を把握し、課題を発見するとともにその解決に向け、自主的に取り組み継続できる人。

AP05 多角的に物事を捉え、新しい展開への探求と論理的思考ができる人。

### 【理学療法学科】

理学療法学科では、「①理学療法士として、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、住み慣れた地域で生活を維持するために、地域住民の思いに共感し、且つ多職種と協働し、科学的な根拠に基づく最適な理学療法を実践できる人材を養成する。②理学療法士の専門性を活かし、地域住民の健康寿命延伸と QOL 維持・向上のために、身体活動に関わる生活の側面から、多職種との連携を通じて地域が抱える課題を発見し解決することで、健康・スポーツ・福祉の分野において地域共生社会の実現に向けて地域住民の支援ができる人材を養成する。」ことを養成する人材像として掲げている。そのために、以下のような資質を有する学生を求めている。

[知識・技能]

AP01 高等学校までに学ぶべき基礎的な知識を有する人。

[主体性・多様性・協調性]

AP02 人を尊重し人に興味を持ち、リハビリテーションの

### (4) 藍野大学短期大学の3つのポリシー

#### ①卒業の認定に関する方針

藍野大学短期大学部では、医療や看護の十分な専門知識を身につけているのみならず、医療環境の変化に対応してゆくことのできる柔軟性を持ち、さらに教育理念にあるように「医やすばかりでなく慰める」ことができる人間の豊かな医療人を育成することを目指しています。具体的にはカリキュラムに従った学修の結果、以下の項目を満たし、かつ所定の単位を取得した者に対して卒業を認定します。

ア. 看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。

イ. 患者あるいは対象となる個人やその家族等と共感を持って接することができる、円滑なコミュニケーションをとることができる。

ウ. 社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。

エ. 自己のスキルアップ、新しい知識の修得について意欲的であり、その方法について理解している。オ. 修得した知見を他者に対して論理的に説明できる。

#### 【第一看護学科・第二看護学科】

ア. チーム医療の一員として同僚や他職種の人と協調性を保ちつつ積極的に関わることができる。

イ. 医療・保健・福祉における社会資源の知識を持ち、活用方法を考えることで支援システムについて知ることができる。

#### 【専攻科 (地域看護学専攻)】

ア. 地域の健康課題を明確にし、その課題解決に向けて計画・立案する方法を理解している。

イ. 地域に存在する社会資源の把握及び活用方法を修得し、必要な支援システムや資源について考えることができる。

ウ. 公衆衛生看護の対象となる個人・家族・集団・組織に

専門職として社会に貢献することに意欲を持つ人。

AP03 協調性をもち他者と良好な関係を築き、協働して自己の役割を責任を持って果たすことができる人。

[思考力・判断力・表現力]

AP04 客観的に状況を把握し、課題を発見するとともに、その解決に向け、自主的に物事に取り組み継続できる人。

AP05 論理的な思考力や柔軟な発想力を持ち、自己の意見を的確に示す表現力や論述力を有している人。

### 【作業療法学科】

作業療法学科では、「①子どもから高齢者までの多様な年齢層の地域住民を対象として、健康で幸福な生活の獲得に向け、意味のある生活行為とそれを行うために必要な心身の活動に対して環境面に働きかけながら作業を手段あるいは目的として利用できる人材を養成する。②地域住民が抱える暮らしの中での課題を発見し、多職種や産業界と連携しながら新たな支援や支援体制の構築ができることによって社会適応力の向上を促し、地域共生社会の実現に向けて保健・福祉・就労等の面から貢献できる人材を養成する。」ことを養成する人材像として掲げている。そのために、以下のような資質を有する学生を求めている。

[知識・技能]

AP01 高等学校までに学ぶべき基礎的な知識を有する人。

[主体性・多様性・協調性]

AP02 人を尊重し、健康や生活に関心を持ち、作業療法士として社会に貢献することに意欲を持つ人。

AP03 協調性に富み他者と良好な関係を築き、柔軟な思考をもって、物事を協働して進めることができる人。

[思考力・判断力・表現力]

AP04 客観的に状況を把握し、課題を発見するとともに、その解決に向け、継続性をもって自ら考えて積極的に取り組むことができる人。

AP05 論理的な思考力や柔軟な発想力を持ち、自己の意見を的確に示す表現力や論述力を有している人。

対して、対象別の実践方法を理解している。

エ. 関係機関・関係職種との協調性を保ちつつ積極的に関わることができる。

#### ②教育課程の編成及び実施に関する方針

藍野大学短期大学部は、育成する人材像をディプロマ・ポリシーで定めています。その目標を達成するために以下の方針で教育課程の編成がなされています。また、学修効果を高めるために、アクティブ・ラーニングなどの教育方法を積極的に取り入れます。

ア. 基礎分野・専門分野等、保健師助産師看護師学校養成所指定規則に則り、適切に科目を配置する。

イ. 基礎科目、専門科目の比率を適切に定める。

ウ. 各科目の履修年次、履修順序を最も効果的に学修できるように配置する。

エ. 豊かな人間性を涵養するため、幅広い教養教育を行う。

オ. 論理的な思考や、それに基づいたプレゼンテーション能力を身に付ける。

カ. 専門職業人としての自覚と能力を養うために、臨地実習を重視する。

各科目については、定期試験等により必要となる知識、技能が身についているかを判定します。実習科目は、看護師・保健師としての専門知識及び技能、協調性、コミュニケーション能力等について評価基準を基に、ディプロマ・ポリシーで掲げる能力が身についているかを評価します。

#### ③入学者の受入れに関する方針

藍野大学短期大学部 大阪茨木キャンパスで求める学生像

#### 【第一看護学科】

第一看護学科では、卒業後に看護師として従事することを前提に、准看護師から看護師へのステップアップをするために、専門的知識と技術の修得、生命の尊厳を基盤とす

## 第二 事業の概要 (3つのポリシー)

る倫理観、豊かな人間力を養い、ヒューマンケアを中核としたより実践的な看護の知識・技能の修得を図ります。また、チーム医療の中で看護の役割を果たすことができる人材育成を目指します。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に定める教育を通じて、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に定める学修の成果をあげるために必要な知識・技能や能力、目的意識・意欲等を備えた人を求めます。

ア. 准看護師の基礎的な知識と技術を修得し、看護学を学ぶために基礎的な知識（国語の読解力や言語運用能力、数学の計算能力）や理解力を身につけている。《知識・技能》

イ. 相手と気持ちを分かち合い、人の痛みがわかる感性を持ち、かつ自分の意見を発信して、人との関係を大切にできる。《思考力・判断力・表現力》

ウ. 人や看護に関心を持ち、責任感や協調性を持って明確な目標に対しての実現に努力を惜みず、主体的に挑戦し最後までやり遂げようとする意欲がある。《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》

### 【専攻科（地域看護学専攻）】

専攻科（地域看護学専攻）では、卒業後に保健師として従事することを前提に、地域・企業・学校などの活動の場において、あらゆる世代やあらゆる健康レベルの個人、家族、さらに集団・組織を対象とした公衆衛生看護活動を展開できる人材育成を目指します。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に定める教育を通じて、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に定める学修の成果をあげるために必要な知識・技能や能力、目的意識・意欲等を備えた人を求めます。

ア. 公衆衛生看護を学ぶための基礎知識（特に看護学・公衆衛生学など）、看護技術や理解力を身につけている。《知識・技能》

イ. 物事を多面的に捉え、課題や問題に気づき、その解決に向けて論理的に表現できる《思考力・判断力・表現力》

ウ. 人々の健康に関心を持ち、責任感や協調性を持って明確な目標に対しての実現に努力を惜みず、主体的に挑戦し最後までやり遂げようとする意欲がある。《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》

### 藍野大学短期大学部 大阪茨木キャンパス 入学者選抜の基本方針

「アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）」に基づき、「学力の3要素」である①「知識・技能」、②「思考力・判断力・表現力」及び③「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を多面的・総合的に評価を行います。

#### 【第一看護学科】

ア. 一般選抜入試では、入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、小論文や個別学力試験、面接、出願書類等によって総合的に評価します。この入学試験では、学力の3要素のうち、①②に重点を置いて判定します。

イ. 学校推薦型選抜入試では、学校長から推薦され、入学を強く希望する学修意欲の高い生徒を選抜すべく、小論文や面接、出願書類等にもとづいて総合的に学力の3要素を評価します。この入学試験では、学力の3要素のうち、②に重点を置いて判定します。

ウ. 総合型選抜入試では、小論文や面接、出願書類等によって、能力・意欲・適性等を多面的・総合的に見ることによって学力の3要素を評価します。この入学試験では、学力の3要素のうち、②③に重点を置いて判定します。

エ. 社会人選抜入試では、専門科目や面接、出願書類等で能力・意欲・適性等を多面的・総合的に学力の3要素を評価します。この入学試験では、学力の3要素のうち、①に重点を置いて判定します。

#### 【専攻科（地域看護学専攻）】

ア. 一般選抜入試では、入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、小論文や個別学力試験、面接、出願書類等によって総合的に評価します。この入学試験では、学力の3要素のうち、①②に重点を置いて判定します。

イ. 学校推薦型選抜入試では、学校長から推薦され、入学を強く希望する学修意欲の高い生徒を選抜すべく、小論文や面接、出願書類等にもとづいて総合的に学力の3要素を評価します。この入学試験では、学力の3要素のうち、②に重点を置いて判定します。

ウ. 社会人選抜入試では、小論文や面接、出願書類等で能力・意欲・適性等を多面的・総合的に学力の3要素を評価します。この入学試験では、学力の3要素のうち、①に重点を置いて判定します。

### 藍野大学短期大学部 大阪富田林キャンパスで求める学生像

#### 【第二看護学科】

第二看護学科では、看護に関しての専門的知識と技術の修得、生命の尊厳を基盤としたより実践的な看護の知識・技能の修得を図り、チーム医療の中で看護の役割を果たすことができる人材育成を目指します。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に定める教育を通じて、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に定める学修の成果をあげるために必要な知識・技能や能力、目的意識・意欲等を備えた人を求めます。

ア. 高等学校の教育課程を幅広く修得し、看護学を学ぶために基礎的な知識（国語の読解力や言語運用能力、数学の計算能力、科学的素養）や理解力を身につけている。《知識・技能》

イ. 相手と気持ちを分かち合い、人の痛みがわかる感性を持ち、かつ自分の意見を発信して、人との関係を大切にできる。《思考力・判断力・表現力》

ウ. 人や看護に関心を持ち、責任感や協調性を持って明確な目標に対しての実現に努力を惜みず、主体的に挑戦し最後までやり遂げようとする意欲がある。《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》

### 藍野大学短期大学部 大阪富田林キャンパス 入学者選抜の基本方針

#### 【第二看護学科】

第二看護学科の選抜試験では、「アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）」に基づき、「学力の3要素」である①「知識・技能」、②「思考力・判断力・表現力」および③「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を多面的・総合的に評価を行います。

ア. 一般選抜入試では、入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、小論文や個別学力試験、面接、出願書類等によって総合的に評価します。この入学試験では、学力の3要素のうち、①②に重点を置いて判定します。

イ. 学校推薦型選抜入試では、学校長から推薦され、入学を強く希望する学修意欲の高い生徒を選抜すべく、小論文、面接、出願書類等にもとづいて総合的に学力の3要素を評価します。また知識・技能の観点から、高等学校での学習成績を調査書の「学習成績の状況」により評価します。この入学試験では、学力の3要素のうち、②に重点を置いて判定します。

ウ. 総合型選抜入試（高大接続基礎能力、アクティブ・ラーニング）では、講義等理解力試験やディスカッション、受講態度、プレゼンテーション・面接、出題書類等によって、能力・意欲・適性等を多面的・総合的に見ることによって学力の3要素を評価します。この入学試験では、学力の3要素のうち、②③に重点を置いて判定します。

エ. 社会人選抜入試では、小論文、面接、出願書類等で能力・意欲・適性等を多面的・総合的に見ることによって学力の3要素を評価します。この入学試験では、学力の3要素のうち、②③に重点を置いて判定します。

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

### 2. 中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況

#### (1) 藍野大学

[中期的な計画の進捗・達成状況]

中期計画（2020年度～2025年度）の3年目となる2022年度は、藍野大学内部質保証・教学マネジメント推進体制のもと各委員会が役割と権限を明確にし、内部質保証委員会及び運営会議と密に連携した大学運営を進めることができた。その成果として例えば、私立大学等改革総合支援事業タイプ1の採択やICT補助金の獲得、学生懇談会の実施、第3期機関別認証評価受審申請を行うことができた。

2023年度は、健康科学研究科の設置認可、機関別認証評価の審査、3学部構想の検討等を予定しているが、2022年度の検証を本報告書により実施することで、改善・向上に向けた取り組みを実行していくこととしたい。

[事業計画の進捗・達成状況]

#### ①内部質保証に関すること（内部質保証委員会）

【自己点検・評価： **(A)** B C D】

【運営会議評価： **(A)** B C D】

KPI	2022年度計画
内部質保証体制の確立と認証評価	<ul style="list-style-type: none"><li>・2021年度に改定した「内部質保証委員会指針」及び「藍野大学内部質保証・教学マネジメント推進体制」に基づく展開</li><li>・大学基準協会第3期認証評価受審に向けた報告書提出</li><li>・2022年度私立大学等改革総合支援事業の採択</li></ul>

2022年度実績	
2022年4月より、①「運営会議」が各委員長で構成される「内部質保証委員会」に自己点検・評価の実行を指示する「機関レベルの自己点検・評価」、②「運営会議」が研究科・各学科に対して自己点検・評価の実行を指示する学位プログラムレベルの自己点検・評価、そして、③個々の教員が行う科目レベルでの点検・評価、という3つの視点から自己点検・評価システムの運用を開始した。大学基準協会第3期認証評価受審に向けた報告書は、2023年3月末に提出予定である。2022年度私立大学等改革総合支援事業については、タイプ1「Society5.0の実現等に向けた特色ある教育の展開」に選定された。	

#### ②教育研究組織に関すること（内部質保証委員会）

【自己点検・評価： A **(B)** C D】

【運営会議評価： A **(B)** C D】

KPI	2022年度計画
国家資格に拠らない新たな学部の設置	・社会のニーズに対応する国家資格に拠らない新たな学部・学科等の構想検討
看護学研究科後期博士課程の設置	・Dマル合を設置認可必要数確保するための業績増
リハビリテーション分野研究科の設置	<ul style="list-style-type: none"><li>・文部科学省を訪問し設置認可相談開始</li><li>・2023年3月申請</li></ul>

2022年度実績	
現在2025年4月届出申請による3学部構想を進めており、その一つ総合リハビリテーション学部内に国家試験に拠らない学科もしくはコースを設置する予定である。2023年3月の時点では、2024年4月末に届出申請するべく設置準備室及び学長企画室を整備した段階である。看護学研究科後期博士課程の設置については検討段階である。リハビリテーション分野の健康科学研究科については、2023年3月に認可申請を行った。認可され次第、学生募集を開始する予定である。	

#### ③教育課程・学習成果に関すること（教務委員会）

## 第二 事業の概要 ( 事業計画等の進捗達成状況 )

【自己点検・評価： A  B C D 】

【運営会議評価： A  B C D 】

KPI	2022 年度計画
アセスメントプラン (学習成果の評価指標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021 年度卒業生を対象とした学習到達度評価結果の集約・検証</li> <li>・遠隔授業の学習への影響について検証</li> <li>・MLST の結果の集約と検証</li> <li>・アセスメントプランの改定</li> <li>・これらの学習成果を踏まえた 2024 年度カリキュラム改定に向けての準備と DP の検討</li> </ul>
シンメディカル授業の推進 (多職種理解を通して職業の専門性を知り、連携した問題解決の方法について討議・学習する授業)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022 年度新規開講科目であるシンメディカルⅢの準備、実施</li> <li>・シンメディカルⅠ及びⅡの学習到達度評価を見直し、授業内容、評価の再検討を行い、アセスメントプランの改定に反映</li> </ul>
国家試験 100%合格の達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科の 2021 年度の結果と対策の集約</li> </ul>
4 年卒業率の向上・退学率の減少	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科の 2017 年度入学生以降の卒業率、退学率の推移を集約</li> <li>・各学科の成績不良者への学習支援の対策検討</li> </ul>
累積 GPA 分布による改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021 年度 GPA 分布表の作成</li> </ul>
授業評価アンケート及び卒業時アンケートの活用並びに満足度の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価アンケートの分析</li> <li>・授業評価アンケート結果を用いたベスト・レクチャーの選定</li> </ul>
藍野グループ共催イベントへの学生の参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藍野グループ共催イベント情報の一元化、共有化について検討 (LMS の活用)</li> </ul>
TOEIC 試験スコアの向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TOEIC 実施の必要性について検討</li> </ul>
海外提携大学数の増加、短期留学制度の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際医療研修、国際看護研修について再開時期の検討</li> </ul>

2022 年度実績
<p>アセスメントプランについては、2010 年度の卒業生を対象とした学習到達度評価を取りまとめた。2022 年度は、アセスメントプランの改定を行う予定であったが、遠隔授業もあり、各科目の評価の妥当性に問題があり、アセスメントプランの改定までに至らなかった。シンメディカル授業は、Ⅰ～Ⅲを実施した。すべて対面授業で実施した。2023 年度はⅣを実施予定であり、シンメディカルの授業内容、評価の見直しを行う予定である。国家試験は、看護学科 100%、理学療法学科 100%、作業療法学科 100%、臨床工学科 97.4%であった (すべて新卒)。2023 年度は、全学科 100%を目標として国試対策を実施する。4 年卒業率については、臨床工学科と作業療法学科が低いため、2022 年度以降は向上、退学率の減少を目指す。累積 GPA 分布の活用は 2022 年度より具体的に開始する予定であったが、一部遠隔授業が続いており、GPA の妥当性の検証を先に実施する必要がある、活用に至らなかった。授業評価アンケート[状況把握用][実践把握用]を実施した。2022 年度より大学規定に則り、両方のアンケート共に FD・SD 推進部会の管轄で実施した。藍野グループ共催イベントへの学生参加は、新型コロナウイルスの影響で各種イベントは中止であったため、特になかった。TOEIC 試験対策は、2022 年度は海外渡航ができない状況でもあり、着手できなかった。これについては、今後、必要性の有無も含めて検討する。海外提携大学数の増加、短期留学制度の充実については、2022 年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響で、増加・充実の考える段階至っていない。2023 年度以降は海外渡航も可能になる見込みであり、再検討していく。</p>

### ④学生の受け入れに関すること (入学試験・広報委員会)

【自己点検・評価： A B  C D 】

【運営会議評価： A B  C D 】

KPI	2022 年度計画
高大連携協定校の増加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の 3 校に加え、さらなる増を検討</li> </ul>
内部推薦制度の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明浄学院高等学校の看護メディカルコース特別内部推薦に関わる基準を策定</li> </ul>
志願者倍率の増加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学志願倍率 2.7 倍を目指す</li> <li>・入試区分別定員数を再検討</li> </ul>
入試区分別成績状況、退学率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1 年終了時の入試区分別平均 GPA が、(全体平均 GPA-0.35) 以上であることを目指す</li> <li>・1 年終了時の退学率 1.5%以内を目指す</li> </ul>
修学支援制度の利用者数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特待生制度 6 名</li> <li>・自宅外通学者奨学金給付制度 6 名</li> </ul>

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

2022 年度実績
<p>高大連携協定校について、6 校（八幡高校、千里青雲高校、藍野高校、汎愛高校、追手門高校、樟蔭高校）との締結を終えている。今後も連携協定による受験者増加の効果を見極めながら高大連携強化に努める。</p> <p>内部推薦制度の構築として、明浄学院高等学校の看護メディカルコース特別内部推薦基準について協議を進めているが、締結には至っていない。2023 年度初旬の決定を予定している。</p> <p>志願者倍率では、2023 年度入学生が 2.43 倍となり、目標の 2.7 倍には届かなかった。臨床工学科では定員割れが生じたことから、次年度は「新たな入試区分の導入」「実習地と連動した地方入試の再開」「受験科目の変更」など対策を講じており改善を図る。また、入試区分別定員数については全学科で再検討し、看護学科及び臨床工学科が募集状況や入試区分の新設に伴い変更している。</p> <p>入試区分別成績状況では、総合型選抜入試、学校推薦型選抜入試、一般選抜入試の各区分において、それぞれの平均 GPA は（全体平均-0.35）を上回る結果となり、入試区分別に差は生じていなかった。また、1 年終了時の退学率は 1.9% となり目標には届かなかったが、昨年度の 2.95% から改善している。他の教育機関への進路変更や学力不足が要因となっていることから、引き続き各学科の紹介を丁寧に行っていく。</p> <p>修学支援制度では、特待生制度 8 名、自宅外通学者奨学金給付制度 1 名が利用している。地方入試を再開することから、自宅外奨学金給付金についても積極的に周知していく。</p>

### ⑤教員・教員組織に関すること（教員組織委員会）

【自己点検・評価： A (B) C D】

【運営会議評価： A (B) C D】

KPI	2022 年度計画
外国人教員の採用、学生に対する指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英会話を教える非常勤講師の採用を検討</li> <li>・外国人非常勤講師による「複言語学習のすすめ」の継続実施</li> <li>・Zoom を利用した「国際医療研修」を実施</li> </ul>
教員評価の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究業績、学生教育、社会貢献、に関するルーブリックを利用した新たな昇任人事制度の制定</li> </ul>
教員のうち博士学位取得率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021 年度博士学位取得率 55%</li> </ul>
FD・SD 公開研修会の実施（参加率）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部課題解決に合致した研修会を年 3 回以上開催</li> <li>・2021 年度 FD 研修参加率 91.9%、SD 研修参加率 89% を両研修会とも参加率 90% 以上に保持</li> </ul>
科学研究費補助金採択数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規採択数 10 件</li> <li>・現採択研究、新規採択研究者とテーマをホームページに掲載</li> </ul>
科研費以外の競争的研究資金採択数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科研費以外の競争的資金募集情報をホームページに提示し、応募数増</li> <li>・競争的研究資金獲得研究者とテーマをホームページに掲載</li> <li>・採択数 6 件</li> </ul>
受託研究、奨学寄附金件数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規採択に向けて研究を推進</li> <li>・産学共同事業の展開</li> </ul>
研究員、客員研究員の受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規研究員、客員研究員を選出</li> </ul>
特許出願及び取得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規の特許出願に向けて研究を推進</li> </ul>
中央研究施設による論文発表と知的財産の管理及び活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央研究施設を利用した学生の卒業研究を推進</li> <li>・藍野高等学校、明浄学院高等学校の中央研究施設利用を促進</li> <li>・学生教育の質を高めるため新たな中央研究施設利用施策を提案</li> <li>・客員研究員及び他施設協働研究を含め 8 編の発表</li> <li>・研究成果の広報活動</li> </ul>

2022 年度実績
<p>現在英語を母国語とする 1 名の助手が教員の英語論文執筆及び英会話の指導を担当している。英会話を教える非常勤講師の採用については検討中である。外国人非常勤講師による「複言語学習のすすめ」については、オンラインであるが 2023 年度も継続予定である。2023 年度「国際医療研修」は、2023 年 8 月よりオーストラリアの Gold Coast にある Griffith Univ.での現地開講を予定しており、2023 年 4 月より参加者募集を開始する。研究業績、学生教育、社会貢献及びルーブリックを利用した新たな昇任人事制度は 2022 年 4 月に制定し、現在運用を開始している。2022 年度の教員博士学位取得率は 44/92 名、47.8% であった。2022 年度 FD・SD 研修会は全 9 回開催し、FD 研修平均参加率は 43.8%、SD 研修平均参加率は 58.4%、平均参加率は 53.3% であった。目標参加率を達成するための改善策としては、①年度予定を前期と後期に分け、前期は 5 月までに、後期は 9 月までにタイトル、日程、時間、場所といったスケジューリングを完成し、FD・SD 情報チャンネルを作成して、全教職員が閲覧できるようにする。②対象者全員のガールンスケジュールに FD・SD 研修会予定を掲載する、③1 週間前、当日など複数回にわたって開催通知を流す、④DVD や YOUTUBE での視聴許可を予定している。2022 年度科学研究費補助金採択数は 6 件（基盤 C3 件、若手研究 3 件）であった。本年度は科研費採択数増加に向けて前年度の科研費不採択者のうち、優れた評価を得た 3 名の教員に研究奨励費が支給されたが、そのうち 1 名が 2023 年度の科研費に採択された。科研費以外の外部資金の獲得は 1 件であり、さらなる増加のための施策が必要である。中央研究施設では 1 名の新規客員研究員を選出し計 6 名となり、学内研究員とともに活発に研究を行っている。本年度の中央研における業績は原著論文 12 報、学会発表 22 件、著書は 3 冊、特許申請は 1 件であった。本年度の新たな試みとして中央研究施設ホームページを刷新し、利用研究者の研究紹介や論文発表のニュースを積極的に発信している。また、学内の研究活動を紹介するために中央研シンポジウムを開催した。中央研究施設では学生教育の一環として卒業研究の指導に加えて、藍野高校の生徒を対象にライフサイエンスの実習を行った。</p>

## 第二 事業の概要 (事業計画等の進捗達成状況)

⑥学生支援に関すること (学生委員会)

【自己点検・評価： A (B) C D】

【運営会議評価： A (B) C D】

KPI	2022 年度計画
データサイエンス教育の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>FD 研修会の実施と評価</li> <li>データサイエンス概論の実施計画</li> </ul>
学習支援システム (manaba) の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査によるフィードバックを加味したガイダンスの実施</li> <li>学生・教員の双方からのアンケート実施と結果の公開</li> </ul>
学修行動調査 (授業時間・態度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学修行動調査の実施と結果の公開</li> <li>学修行動調査結果を踏まえ、教務委員会と連携し改善点の検討</li> </ul>
卒業時アンケートによる学生の満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業時アンケートを実施と結果の公開</li> <li>改善すべき事案の優先順位付けと実施</li> </ul>
求人情報システムの刷新	<ul style="list-style-type: none"> <li>新システムの導入と稼働</li> </ul>
キャリア講座の設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学科で実施しているキャリア支援の実態調査</li> <li>キャリア支援の充実と就職率 100%</li> </ul>
卒業後研修会の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学科で実施している卒業支援の実態調査</li> <li>校友会と連携し、卒業後研修会の開催に向けての計画立案</li> </ul>

2022 年度実績
<p>データサイエンス教育の強化については、FD 研修会にて「因子分析」「クラスター解析」など講習会の開催に留まっている。学習支援システム(manaba)の活用は、大きな問題もなく順調に導入・活用ができてきているものの検証作業はできておらず、次年度以降の実施が必要である。学修行動調査・卒業時アンケートについては、教務委員会主導のもと実施済みであり結果を分析中である。</p> <p>求人情報システムの刷新については、既存の求人システム AINONAVI の利便性・安全性の問題点改善のため、2022 年度に新しい求人システム「求人検索 NAVI」を導入し運用を開始している。2022 度の利用件数は導入時期の関係もあり、看護 46 件と少ないものの、理学 1,020 件、作業 197 件、臨工 244 件と一定数の利用件数が確認できた。今後、更なる利用者数の増加に向け学生の利便性向上に努める。</p> <p>各学科によるキャリア講座の実態調査は、看護：「保健師」、「養護教諭一種免許状」、「高等学校教諭一種免許状 (看護)」、理学：「認定パーソナルトレーナー」、「認定ストレンクス&amp;コンディショニングスペシャリスト」、「福祉住環境コーディネーター検定試験 (2 級)」、「初級障がい者スポーツ指導員」、「サービス接遇実務検定試験 2 級、準 1 級」、作業療法学科：「福祉住環境コーディネーター検定試験 (2 級)」、「初級障がい者スポーツ指導員」、「サービス接遇実務検定試験 2 級、準 1 級」、「メンタルヘルス・マネジメント検定試験Ⅲ種」、臨床工学科：「第 2 種・第 1 種 ME 技術実力検定試験」、「基本情報技術者」、「医療情報技師」、「医療機器情報コミュニケーター (MDIC)」などの取得に向けた講座が行われている。資格取得者の把握については、理学・作業にて選択授業としている「サービス接遇検定」では、2021 年度は 2 級受験者 46 名内合格者 39 名 (合格率：84.7%)、準 1 級受験者 27 名内合格者 20 名 (合格率 74.0%)、2022 年度 2 級受験者 35 名内合格者 24 名 (合格率：68.6%)、準 1 級受験者 25 名内合格者 17 名 (合格率 68.0%) の状況である。今後全資格での受験者数、合格者数の把握が必要である。</p> <p>また、キャリアセンターにおいては、「看護キャリアアップ支援事業」「キャリアサポート・再就職支援事業」「スカラシップ就学支援事業」の 3 つの事業を実施している。それから、次年度には、「理学療法士認定臨床カリキュラム教育施設」の申請を行う予定である。</p> <p>就職率に関しては、国家資格取得者の就職率は、看護 100%、理学 98% (2 名活動中)、作業 100%、臨工 100% であり、全学科で就職率は 100% となる予定である。</p> <p>卒業後研修会については、理学では毎年 3~6 回/年の卒業研修を実施している。2021 年度は対面式の講習会が出来なかったため、WEB 配信を利用した講習会を平均約 100 名の参加があった。また、作業療法学科でも 2020 年度より年 2~3 回の卒業後研修会を開催しており、卒業後の継続的な支援を実践してきている。</p> <p>校友会との連携した卒業後研修については、あいの祭時に校友会共催の研修会を実施した。次年度以降あいの祭以外の時期にも実施できるように校友会会長と検討中である。</p>

⑦教育研究等環境に関すること (教育・研究推進委員会)

【自己点検・評価： (A) B C D】

【運営会議評価： (A) B C D】

KPI	2022 年度計画
アクティブラーニングによる授業比率	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた対面授業の実施方法の検証及び環境整備</li> </ul>

2022 年度実績
<p>昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染の拡大が続く中、本学においては講義をできるだけ対面で行うことを目指して、講義室の席の間隔を広げて密にならないようにすること、学生は毎日の健康チェックで体調を管理すること、講義室の清掃をこまめに行うことなどを実行し、学内での感染拡大を防止し、1 年間継続して講義や実習を行うことができた。manaba の活用により、講義時間以外でも質問が可能となり、事前の講義資料の配付や小テストを実行することで予習復習の質が向上した。教員も個々の学生の学修状況を把握することが容易になり、個人指導にも活用できている。</p>



## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

### ⑧社会連携・社会貢献（社会貢献委員会）

【自己点検・評価： A (B) C D】

【運営会議評価： A (B) C D】

KPI	2022 年度計画
提携プロスポーツ団体の増加	・新たにプロスポーツ団体（障がい者スポーツを含む）との連携を検討
健康増進事業の連携先からの評価・改善	・実施プロジェクトの効果検証を実施 ・実施延期あるいは中止となっていた事業の実施の検討 ・自治体や介護予防事業への参画
市民公開講座の参加実績増加	・4 学科 4 講座を企画し、実施（対面あるいはネットによる講座）。合計 200 名の参加目標
藍野グループ（病院等）で開催する市民公開講座への学生・教員の参加数	・藍野大学教員及び藍野病院スタッフの共同による市民公開講座を実施
藍野グループ共催イベントへの学生参加	・藍野大学教員及び藍野グループスタッフによる太田地区の高齢者を対象とした身体機能測定会を実施する ・藍野病院「まちの保健室」が再開された場合は、大学教員及び学生の参画

2022 年度実績
<p>本年度も新型コロナウイルスの第 7・8 波の影響により、活動制限を余儀なくされたが、各学科単独ではなく学部としてのイベント「市民公開講座」や地域貢献イベント「子育てサロン」「はつらつと生きるための健康講座」を対面あるいはハイブリッド形式（対面・WEB）で実施できた。特に市民公開講座については、参加者が合計 92 名であり目標の 200 名には到達していないが、2020 年度、2021 年度は開催できなかつたため、本年度に再開し市民の方からの意見や要望を直接聞くことができたことは大変意味があった。さらに、本年度より学科のみではなく学部全体で学生ボランティアを募集できるように社会貢献委員会で情報を集約し、学生に情報発信することで広くボランティア活動を実施できる機会を提供できるようになった。</p> <p>2023 年度は学部レベルでのイベントを実施するだけでなく、藍野グループ共催でのイベントを企画し、教員だけではなく学生がイベントへ参加できる機会を積極的に設けていく。</p>

### ⑨藍野大学中央図書館

#### ア．新たな大学図書館像の模索

3 年続いた図書館業務の外部委託を終了し、2022 年度から専任事務職員での運営となった。図書館サービスの質の維持向上に努め、受入蔵書はもとより医療系コミックや闘病記などの分野の受入強化を図った。また、電子リソースを見直し、文献検索の高度化・発信能力の向上に必要な整備として新しく検索データベース「ProQuest Nursing & Allied Health Premium」、文献検索支援システム「360Link」を新たに導入した。蔵書面、システム面の両面より学生及び教員の修学及び研究へのサポートを行った。

#### イ．業務改善と利用者サービスの向上

前年度に引き続き 8 月に蔵書点検を行い、実蔵書データは精細なものとなった。図書管理システムは、各設置校の現状を考慮し見直しを図っている。

今年度の新たな試みとしては、MLC1 階において図書を展示し、貸出業務を行う「ランチタイム図書館」、春期長期休暇にて茨木市の中高生を対象とした「図書館内自習室開放」、図書館長による学生向け公開講座「国家試験対策講座」を行った。設備面では、図書合同教室の Wi-Fi 設置及びプロジェクターシステムのハイビジョン化、主閲覧室である第一閲覧室の老朽化した空調設備の一新を行った。学生をはじめとした利用者へのサービス向上を継続している。

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

### (2) びわこリハビリテーション専門職大学

[中期的な計画の進捗・達成状況]

開学 3 年目を迎えた 2022 年度も設置計画に基づき順調に進捗した。2023 年度は完成年度を迎え、初めての卒業生の輩出、国家試験、就職があるため、そのための準備も進めてきた。また、2024 年 4 月には言語聴覚療法学科の開設、新キャンパスの運用開始、教育課程の改正があるため、そのための検討を重ね、計画をまとめることができた。これらを踏まえて 2025 年度の中期計画の最終年の目標達成に向けて様々な取り組みを進めていく。

[事業計画の進捗・達成状況]

#### ①教育の内部質保証、教育成果の可視化の構築（自己点検・評価委員会）

KPI	2022 年度計画
内部質保証体制の構築・運用	策定されたアセスメントプランを実質的に動かす
IR 機能の強化、IR 情報の公開	教学 IR の担当者を選任し作業を開始
教育成果の可視化	第 1、2 期生の成績、学習行動を可視化

2022 年度実績
2022 年度は専門職大学基準協会の試行評価を受審し、適合の評価を得ました。本件は専門職大学基準協会が正式な認証評価機関ではないため、あくまでも参考にしかありませんが、2021 年度の自己点検評価報告書に基づく外部評価であったことから、その意見については、参考になるものは今後に生かしていきます。 IR 室では、2022 年度には学習行動調査を行いました。2023 年度は完成年度を迎えますので各種の調査を推進していきます。

#### ②専門職大学ならではの実践的な職業訓練（教務委員会）

KPI	2022 年度計画
各フィールドを利用した臨床実習	環びわ湖大学・地域コンソーシアム 大学地域連携課題解決支援事業への学生の参加

2022 年度実績
2021 年度に採択された環びわ湖大学・地域コンソーシアムの大学地域連携課題解決支援事業「いきいき生活プロジェクト～頭と体のリフレッシュ～」の最終年度でした。教員、学生、東近江市の長寿福祉課との連携事業で、学生は高齢者への体操指導や体力測定、コンソーシアムでの中間報告などを行いました。 このような取り組みは、学生の自発的な行動を促すために非常に有意義なものとなりました。 また、実習先病院である甲西リハビリ病院、今津病院、おした整形外科医院、白石クリニック、吉川整形外科クリニックとは、本学と主たる実習施設としての協定を締結し、臨床実習での連携を強化することになりました。2021 年度に協定を締結した豊郷病院とあわせて計 6 施設と協定を締結しています。

#### ③リハビリテーションを実践できる人材の養成（大学運営会議）

KPI	2022 年度計画
教育課程連携協議会の開催	9 月と 3 月に実施する。
教育課程の改正	完成年度後を視野に入れ、ワーキンググループを設置。検討を始める。

2022 年度実績
本学は「地域共生社会の実現に資する人材の養成」を教育目標に掲げています。その目標の達成に向け、職能団体、実習先、行政の関係者及び本学教員から構成される教育課程連携協議会を設置しています。 2022 年度は 9 月と 3 月に開催し、本学の教育課程の改正へ向けた具体的な助言をいただきました。その意見を取り入れ、2024 年度からの教育課程の検討を行い、新教育課程をまとめることができました。2024 年 4 月からの適用に向けて申請を行います。

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

### ④開かれた大学として卒業後の知識のアップデートの支援（実習支援センター）

KPI	2022 年度計画
滋賀県理学療法士会、作業療法士会との研修会の共催	研修会実施に向けた打ち合わせの開始
臨床実習指導者講習会の実施	理学療法士臨床実習指導者講習会を年 2 回、作業療法士臨床実習指導者講習会を年 1 回実施する。

2022 年度実績
<p>滋賀県理学療法士会・作業療法士会との連携による研修会は実施できませんでしたが、2023 年度に向けて準備を始めています。</p> <p>また、義務化された臨床指導者講習会は、理学療法学科では予定していた 2 回は諸事情によりできず、1 回の開催となりました。作業療法学科は予定通り 1 回開催し、実習先の施設の指導者の養成にも取り組みました。</p> <p>その他、2022 年度から本学教授によるスキルアップセミナーを開催し、実習施設から多数の理学療法士、作業療法士やその他医療従事者の参加がありました。</p>

### ⑤教育力、研究力向上のための組織的取り組み（FDSD 推進委員会）

KPI	2022 年度計画
FD・SD 研修会の実施（参加率）	年 3 回実施予定
科学研究費補助金応募数（採択数）	15 件以上
科研費以外の競争的研究資金採択数	2 件以上

2022 年度実績
<p>研究活動推進の取り組みのひとつとして、2025 年度には専任教員の 90%以上の応募を目指して、科学研究費補助金、その他外部資金の獲得に向け、研究環境の整備を進めましたが、2022 年度は科研費は 13 件の応募にとどまりましたが、そのうち 2 件が採択されました。科研費以外の競争的資金については、2 件という目標には達しませんでした。1 件が採択されています。</p> <p>また、医療、保健、健康増進などの研究分野の発展に貢献するため、刊行を目指していた本学の紀要「びわこ健康科学」の第 1 号が刊行されました。教育力向上のための FD・SD 研修会は、2022 年度は 3 回実施しました。実施内容等は以下のとおりです。</p> <p><b>FD・SD 研修実施状況</b></p> <p>第 1 回 2022 年 7 月 20 日(水)</p> <p>(1)「びわりハの教育活動の現状と今後に向けて」 びわこリハビリテーション専門職大学 学長 山川 正信</p> <p>(2)「2021 年度の学修行動調査の結果と成績状況その他について」 事務センター センター長 中村 剛至</p> <p>(3)「認証評価試行評価の受審について」 リハビリテーション学部 学部長 山田 久夫</p> <p>第 2 回 2022 年 8 月 25 日(木)</p> <p>(1)「専門職と研究 なぜ理学療法士・作業療法士に研究が必要か」 理学療法学科 教授 千住 秀明</p> <p>(2)「科学研究費採択に向けて-求められる臨床研究の探求と計画書作成のコツ!-」 作業療法学科 教授 辛島千恵子</p> <p>(3)「科研費コンプライアンス教育」 リハビリテーション学部 学部長 山田 久夫</p> <p>第 3 回 2022 年 9 月 20 日(火)</p> <p>(1)「藍野大学の教学 IR について」 藍野大学医療保健学部理学療法学科 講師 教学 IR 室 杉山 芳生 先生</p>

### ⑥施設更新による魅力あるキャンパスづくり（大学運営会議）

KPI	2022 年度計画
キャンパスの改修、機器備品の充実	実習室の AV 機器の整備、ネットワーク環境の充実及び駐車場の整備
八日市キャンパスの開設	改修計画の決定、運用計画の立案

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

2022 年度実績
<p>2022 年度は AV 機器が未整備だった教室の整備、学生数の増加に伴う Wi-Fi 環境の改善、以下の教育研究用機器備品を購入し、教育環境の改善を図りました。</p> <p>2022 年度の購入機器備品</p> <p>①バギー（キサク工房 RV ポケット）</p> <p>②フィジオラジオステイムプロセット（ラジオ波（超短波））</p> <p>③超音波診断装置ポケットエコー miruco</p> <p>また、施設設備では学生駐車場の整備を行い、落下防止のフェンスの設置、階段の整備を行いました。その他、老朽化していた火災警報盤の更新など施設面の改善も進めています。</p> <p>それから、2024 年 4 月から運用を開始するの八日市商工会議所跡の改修計画案を作成し、順次計画を進めています。</p>

### ⑦独自の修学支援システムを活用したキャリア支援（就職支援委員会）

KPI	2022 年度計画
求人情報システムの更新	新システムの導入、試験運用

2022 年度実績
2022 年度は新システムへの求人情報の登録など、試験運用を行い、就職活動が始まる完成年度に向けて準備を進めました。

### ⑧地元自治体・各種団体・組織・スポーツチーム等との連携強化（大学運営会議、入試広報委員会）

KPI	2022 年度計画
地元自治体との包括協定の締結	滋賀県、東近江市、日野町と協定を締結。 協定に基づき、連携事業を推進する。
スポーツチーム・各種団体・組織等との協定の締結	理学療法士会と共同で中高生、保護者への広報及び啓発活動の実施。 アカデミックパートナー協定を結んでいる滋賀レイクスターズとは、学生ボランティアの派遣、インターンシップの実施、選手又は運営スタッフからの特別講義を予定している。

2022 年度実績
<p>本学の目的でもある地域共生社会の実現に向け、東近江市との連携事業や滋賀県の新型コロナウイルスの大規模ワクチン接種会場へ医師免許を持つ本学教員を派遣しました。また、東近江メディカルケアネットワークへの参画や、滋賀県及び東近江市の国スポ・障スポの準備委員等として開催に向けて協力をしています。</p> <p>他にも東近江市スポーツ少年団の「合同説明会&amp;スポーツフェア」にも協力し教員を派遣し、参加者の体力測定などを行いました。</p> <p>滋賀レイクスとは、新型コロナウイルス感染症の拡大のため、なかなか実施できていなかったインターンシップを、昨年 9 月に実施することができました。2023 年度の計画についても打ち合わせを進めています。</p> <p>他にも滋賀県及び滋賀県理学療法士会、滋賀県作業療法士会、滋賀県言語聴覚士会と共同でチラシを作成し、県内の中高生への配布などの広報活動も行いました。</p>

### ⑨学生募集の戦略的な取り組み（入試広報委員会）

KPI	2022 年度計画
志願者倍率	（名目）志願者倍率を理学療法学科 3.0 倍、作業療法学科 2.0 倍以上
滋賀県外からの入学者の比率	志願者の 12%以上（2022 年度は約 7%）
収容定員充足率	87.5%（2022 年 4 月時点 79.2%）

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

2022 年度実績
<p>入学定員および収容定員数の確保は、学校経営における最重要課題です。とくに開設初年度の学生募集が振るわなかったため、完成年度以降の収容定員確保が課題です。志願者数の増加を図ることと同時に、退学者を減らす取り組みを進めていきます。</p> <p><b>2022 年度実績（2023 年度入学生）は、理学療法学科で 87 名、作業療法学科で 18 名</b>でした。その結果、2025 年度目標の志願者倍率（2.50）、滋賀県外からの入学者の比率（25%）、収容定員充足率（1.10）に対してそれぞれ 1.34、約 7%、76.25%となりました。いずれの目的も達成できておらず、課題の残る結果となりました。2022 年度の結果を分析し、2023 年度の募集活動を検討します。</p> <p>退学者を減らす取り組みとして、2020 年度に設置した全学的な組織としての学習支援センターによる障がい学生支援の体制整備、学科では学生満足度の向上を目指し、学年担任を置き、学生の出席や学習状況、不安などの情報に対して素早い対応ができる体制を整えました。また、学科会議で学生の情報を共有し、学習面はチューター、生活面と保護者対応を担当と分担して対応しました。</p>

### ⑩高校との連携協定による専門職大学の認知度向上（入試広報委員会）

KPI	2022 年度計画
高大連携校数	5 校（2022 年 4 月時点 4 校）

2022 年度実績
<p>2022 年度は、新規に連携協定を結ぶことはできませんでしたが、連携協定締結校での出張講義等を通じて認知度の向上に努めました。2022 年度に行った高大連携事業は以下のとおりです。</p> <p>近江兄弟社高等学校 7 月 7 日（木） 学部・学科セミナー 1 年生 光泉カトリック高等学校 5 月 17 日（火） 出張ガイダンス 1 年生 8 月 26 日（金） 出張ガイダンス 3 年生 彦根総合高等学校 5 月 13 日（金） 介護・福祉領域 2 年生、3 年生 5 月 27 日（金） 介護・福祉領域 3 年生 6 月 10 日（金） 介護・福祉領域 2 年生 6 月 17 日（金） 介護・福祉領域 2 年生 9 月 30 日（金） 介護・福祉領域 3 年生 10 月 14 日（金） 介護・福祉領域 3 年生 10 月 21 日（金） 介護・福祉領域 2 年生 11 月 11 日（金） 介護・福祉領域 3 年生 11 月 25 日（金） 介護・福祉領域 3 年生 2 月 24 日（金） 介護・福祉領域 2 年生</p>

### ⑪藍野高校及び明浄学院高等学校からのグループ内進学強化（入試広報委員会）

KPI	2022 年度計画
高大連携協定の締結、内部進学者の受け入れ	出張講義等の実施

2022 年度実績
<p>2022 年度に行った明浄学院高等学校との連携事業は以下のとおりです。</p> <p>5 月 27 日（金） 看護メディカルコースの学生 40 名 来校 大学見学や模擬講義を受講して頂き、幅広い医療職に関する見識を深めるとともに、自らのキャリアについて考えていただく狙いで実施した。</p> <p>3 月 8 日（水） 出張ガイダンス 1 年生、2 年生</p>

### (3) 藍野大学短期大学部

[中期的な計画の進捗・達成状況]

#### ①教育の効果に関すること

メディカル・ヘルスイノベーション研究所における講座については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、実施することが出来なかったが、学内向けの講座については実施し成果を上げている。

あいの発達支援リハビリ訪問看護ステーションについては、新型コロナウイルス感染症の影響で訪問件数は

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

伸び悩んでいる。

自己点検評価においては、一部システム構築は出来ていないところもあるが、課題点の検証を行い、自己点検・評価報告書を、第三期認証評価の観点を踏まえ作成し公開した。

### ②教育課程と学生支援に関すること

公開講座及び地域連携活動について、2022年度は新型コロナウイルス感染症への対応が落ち着きを見せたことから、様々な講座の実施が可能となった。その為、両キャンパスにおいても地域連携講座を開催し、参加者も徐々に戻ってきている。

官学連携についての強化は、富田林市との間で、基本協定書の締結を行った。

シラバスについては、記載事項の統一に向けて内容の改善はされているが、完全な統一までには至らなかった。

退学者については、目標は達成出来ているが、休学者については、年度目標には届いているが、中期目標には届いていない。

国家試験合格率については、専攻科は目標を達成したが、第一看護学科、第二看護学科は達成する事が出来なかった。

### ③教育資源に関すること

高大連携について、連携校の追加は出来ていないが、既存の連携校について、明浄学院高等学校と樟蔭高等学校を中心として、連携講座等を実施し、明浄学院高等学校との間では、第二看護学科が特別入試の実施を決定した。

FD・SD活動の推進について、研究倫理委員会とFD・SD推進委員会が連携し、中期目標を上回る研修会等を実施した。また、藍野大学主催の研修会等にも参加した。

将来構想については、大阪阿倍野キャンパスの新校舎において、教員の個人研究室を含む基本設計が完成した。

### [事業計画の進捗・達成状況]

#### ①教育の効果に関すること（メディカル・ヘルスイノベーション研究所、自己点検・評価委員会）

KPI	2022年度計画
各講座の設立・運営【メディカル・ヘルスイノベーション研究所】	<ul style="list-style-type: none"><li>メンタルヘルス領域において公開講座を企画</li><li>グリーンケアに特化したカウンセリングルームの設置</li><li>傾聴ボランティア養成講座開講に向けた取り組み</li><li>専攻科との協同による専攻科学生を対象とした講座の実施</li></ul>
月平均利用者数【メディカル・ヘルスイノベーション研究所】	<ul style="list-style-type: none"><li>あいの発達支援リハビリ訪問看護ステーションの月平均利用者数の増加</li></ul>
内部質保証システムによるPDCAサイクルの実行【自己点検・評価委員会】	<ul style="list-style-type: none"><li>認証評価の結果を踏まえた課題点の検証と第三期認証評価の観点を踏まえた評価マニュアルの作成</li><li>教員の教育活動を相互に点検・評価するためのシステムの構築</li><li>学生の自発的な活動を評価するためのシステムの構築</li><li>教員の研究活動を点検・評価するための業績報告様式の作成</li></ul>

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

### 2022 年度実績

#### 【メディカル・ヘルスイノベーション研究所】

メンタルヘルス領域において 2022 年度に計画していた富田林市との共催による公開講座については、具体的な企画には至らなかったが、短期大学部移転に向け富田林市長へ挨拶に伺い、連携協定の締結を行うことで話がまとまり、2023 年 3 月 20 日に協定書を締結しました。今後は、この協定のもと、具体的に公開講座の開催を企画する予定である。

グリーンケアに特化したカウンセリングルームの設置については、設置には至っていないが、引き続きグリーンサポーター養成講座開講に向けて検討する。

専攻科学生を対象としたゲートキーパー養成講座は、昨年度に引き続き茨木市健康医療部に講義を依頼し実施した結果、19名の学生が参加した。また、メンタルヘルス・マネジメント検定試験対策講座については、専攻科の学生 36 名が受講した。検定試験の結果、Ⅱ種が 28 名（合格率 80.0%）、Ⅲ種が 32 名（合格率 88.8%）合格した。

子育て・発達支援領では、あいの発達支援リハビリ訪問看護ステーションの 2021 年 4 月からの延訪問件数は、1,971 件である（2023 年 1 月 31 日現在）。2022 年度には非常勤訪問看護スタッフを 1 名増員し、2023 年度には常勤の作業療法士スタッフを増員予定である。また、2023 年度大阪府訪問看護教育ステーション事業受託事業者に応募し、三島ブロック教育ステーション担当となった。今後、三島ブロック内の訪問看護ステーションと協力し訪問看護サービス向上に向けた講習会開催などを主体となって行う予定である。本ステーションは、本学及び藍野大学の学生の実習を継続的に受け入れており、今後は、他大学の実習も受け入れる予定である。

#### 【自己点検・評価委員会】

2022 年度は、2017 年の認証評価指摘事項を再点検し、課題点の検証を行った。また、自己点検・評価報告書を、第三期認証評価の観点から踏まえ作成し公開した。

教員の教育活動を相互に点検・評価するために、ピアレビューの実施と評価、教育内容の改善までの一連の流れを構築した。

学生の自発的な活動を評価するためのシステムの構築は未達成であるが、学生委員会と連携し、今後検討を重ねる。また、教員の研究活動を点検・評価するための業績報告様式は未達成であるが、FD・SD 推進委員会と連携し、今後検討を重ねる。

#### ア. ゲートキーパー養成講座

日時	内容	参加学生数
2月16日	大阪府版ゲートキーパー養成研修 ①基礎情報編（中級） ②見るロールプレイ	19名

#### イ. 認知症サポーター養成講座

日時	参加学生数
8月25日	13名

#### ウ. メンタルヘルス・マネジメント検定

	受験者			合格者	
	Ⅱ・Ⅲ両方	Ⅱ種のみ	Ⅲ種のみ	Ⅱ種	Ⅲ種
第二看護学科	—	—	20名	—	16名
専攻科	36名	0名	1名	28名	32名

#### ②教育課程と学生支援に関すること（地域連携推進委員会、FD・SD 推進委員会、教務委員会）

KPI	2022 年度計画
公開講座件数【地域連携推進委員会】	・メディカル・ヘルスイノベーション研究所と連携した公開講座の開催
連携強化地域【地域連携推進委員会】	・茨木市、メディカル・ヘルスイノベーション研究所と連携した地域連携活動の実施 ・大阪狭山市、富田林市と連携した地域連携活動の実施 ・一般企業主催のプロジェクトへの参加
人間力向上に向けた研修の開催【FD・SD 推進委員会】	・人間力の向上に資する教育を実践するための研修の企画と開催 ・学生の人間力向上に向けた研修の開催
シラバス作成マニュアル整備【教務委員会】	・シラバス作成マニュアルの見直しと記載事項の統一

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

退学者・休学者の減少【教務委員会】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期入学決定者に対する事前課題の提示と基礎学力の測定</li> <li>・外部予備校との連携による入学前教育の実施</li> <li>・事前課題、入学前教育の効果の検証</li> <li>・個々の不得意分野、基礎学力の可視化</li> <li>・可視化した不得意分野、基礎学力に基づくリメディアル教育の実施</li> </ul> <p>退学者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第一看護学科 4%未満</li> <li>第二看護学科 7%未満</li> <li>専攻科 0%</li> </ul> <p>休学者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第一看護学科 4%未満</li> <li>第二看護学科 10%未満</li> <li>専攻科 0%</li> </ul>
入学初年度における休退学率【教務委員会】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度入学初年度の休退学率は6.0%を上回らない</li> </ul>
国家試験合格率【教務委員会】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内教員の指導における問題点、改善点の検証</li> <li>・実施した国家試験対策の振り返り、改善に向けた施策の検討</li> <li>・国家試験合格率</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>第一看護学科 87%</li> <li>第二看護学科 95%</li> <li>専攻科 100%</li> </ul>

2022年度実績	
<p>【地域連携推進委員会】</p> <p>2022年度の地域貢献活動として、以下の内容を実施した。大阪茨木キャンパスでは専攻科を中心に、『子育てサロン「だっこ」』を実施し、のべ6組の参加者があった。</p> <p>7月26日 健康教育：「熱中症対策！ベビーを守れ！」</p> <p>8月23日 講演会：「子育てイライラ解消するには」</p> <p>8月26日 健康教育：「夏本番！熱中症のなぜなぜ」絵本を読んでみよう</p> <p>大阪富田林キャンパスでは、『子育て支援講座』をベビーマッサージの指導だけではなく、育児のポイントや相談等も実施した。</p> <p>7月6日 大阪狭山市子育て支援センター「ぼっぼえん」参加者7組</p> <p>9月29日 柏原市玉手つどいの広場「たまたまばこ」参加者5組</p> <p>10月4日 柏原市の柏原つどいの広場「ほっとステーション」参加者14組</p> <p>8月25日 「認知症サポーター養成講座」富田林市共同開催 参加者35名</p> <p>10月5日 大阪狭山市『ファミリーサポート講座「こどもの健康」』参加者8名</p> <p>また、SDGsの取り組みの一環として、学生による社会貢献活動「アイシティ eco プロジェクト」（使い捨てコンタクトレンズ空き容器の収集）へ年間を通じて実施し、2022年度の回収実績は7.57kg（空ケース7,570個分）となり、感謝状をいただいた。</p> <p>【教務委員会】</p> <p>シラバスについては、内容の変更点はなく、文言の修正を行った。内容は各領域内で検討され、シラバス記載事項が統一されつつあるが、完全な統一までには至らなかった。</p> <p>休学者・退学者の減少や入学初年度における休退学率については、第一看護学科では、入学予定者全員に「理科・計算・国語・社会の復習ワークブック&amp;ドリル」を購入させて各自学習を進め、入学直後に、付随しているテストを実施し、特に、計算力、文章力、語彙力を査定した。1年生前期科目の文章表現法及び医療数学において学力の強化を図った。第二看護学科では、早期入学決定者のみだけでなく、入学予定者全員に外部予備校との連携による入学前教育を実施しており、各課題の提出状況や事前・事後テストを通じて個々の基礎学力や入学前教育の効果をまとめている。入学前教育の結果を受けて、9月に国語と生物のリメディアル教育を実施した。専攻科は、内部推薦入試者に小論文を課題として実施した。</p>	

### エ. 休学率および退学率

	休学者	退学率
第一看護学科	2.0%	3.6%
第二看護学科	5.8%	5.2%
専攻科	0%	0%

### オ. 初年度における休学率

	初年度における休学率
第一看護学科	4.8%
第二看護学科	5.8%
専攻科	0%



## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

### カ. 2022年度 看護師国家試験の結果

	新卒			既卒		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
第一看護学科	129名	105名	81.4%	13名	8名	61.5%
第二看護学科	78名	70名	89.7%	4名	1名	25.0%

### キ. 2022年度 保健師国家試験の結果

専攻科	新卒		
	受験者	合格者	合格率
	39名	39名	100.0%

### ③教育資源に関すること（入試試験委員会、研究倫理委員会、FD・SD推進委員会、将来構想検討委員会）

KPI	2022年度計画
高大連携協定校の数（累積）【入試試験委員会】	<ul style="list-style-type: none"> <li>高大連携協定校のさらなる拡大と連携授業等の実施</li> <li>高校生が短期大学部での学びに対する理解を深め、自発的に将来の進路について考えることができるプログラムの推進</li> <li>より一層高大連携を強化するための藍野大学短期大学部と藍野高等学校の教育職員の情報交換会等の実施</li> </ul>
明浄学院高等学校から第二看護学科への進学者数【入試試験委員会】	<ul style="list-style-type: none"> <li>明浄学院高等学校から第二看護学科への進学の道筋の構築</li> </ul>
研究活動の向上【研究倫理委員会】	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究倫理教育、コンプライアンス教育の実施</li> <li>研究意欲向上のための研修会の開催</li> <li>学内教員による研究発表会の開催</li> <li>科学研究費助成事業への応募書類作成や研究テーマの選定に関する研修の開催</li> </ul>
年間のFD研修開催件数【FD・SD推進委員会】	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育技法等に関する発表会の開催</li> <li>教員相互の授業参観の実施</li> <li>研究倫理委員会と連携した研究倫理教育、コンプライアンス教育の実施</li> </ul>
短期大学部の移転【将来構想検討委員会】	<ul style="list-style-type: none"> <li>2020年度に設置した短期大学部移転プロジェクト会議における、2025年の移転に向けた検</li> </ul>

2022年度実績
<p><b>【入試試験委員会】</b></p> <p>本学と高大連携協定書を締結している高等学校は7校（藍野高等学校、明浄学院高等学校、樟蔭高等学校、羽衣学園高等学校、大阪緑涼高等学校、大阪府立東淀川高等学校、奈良文化高等学校）である。高大連携については拡大を図るため精力的に活動を行ったが、2021年度に引き続き、コロナ禍の状況も続いたことで現状維持となった。他方で高校内での進路ガイダンスや講座、学校見学会等の実施については改善傾向にある。明浄学院高等学校、樟蔭高等学校では、身近な出来事から、看護師を将来の自身の姿として見つけてもらうための講座等を実施した。</p> <p>第二看護学科では2022年4月から法人の設置校となった明浄学院高等学校に対して、事業計画で掲げていた新たな入試制度（内部進学制度）の導入に向けて、両校教職員からなる担当で協議を重ね、問題の共有、情報の交換を行ってきた。その結果として、2024年度入学生対象の入学試験から、明浄学院高等学校生対象「特別入試」を実施することが決定した。</p> <p>明浄学院高等学校から第二看護学科、藍野高等学校から第一看護学科へ、より一層高大接続として内部進学の強化を図った。</p> <p><b>【研究倫理委員会】【FD・SD推進委員会】</b></p> <p>研究倫理教育とコンプライアンス教育として、藍野大学主催の研修会に短期大学部の教員も参加した。参加出来なかった教員に対しては、日本学術振興会の研究Eラーニングコースなどの受講を義務付けた。また、研究意欲向上に向けた学内研修会として、藍野大学開催の「科研費公募説明会」に参加した。</p> <p>科学研究費助成事業については、3名の教員が応募し、結果は採択に至らなかったが、次年度においても、引き続き積極的な取り組みを促していく。更に、学内における研究発表会をFD・SD推進委員会で開催し、3名の教員が研究発表を行った。</p> <p>教育力の向上を目的として、定期的なFD・SD研修会を7回開催した。本学独自の研修会だけでなく、藍野大学で開催されたFD・SD研修会へも積極的に参加した。研修会においては、大阪茨木キャンパスと、大阪富田林キャンパスで同時開催をするためにZoomを使用した実施方法とした。</p> <p>教員の教育技法向上のために、教員相互の授業参観を12講義において実施した。</p> <p>今後も、FD・SD活動の推進のため、研究倫理委員会とFD・SD推進委員会が互いに協力し委員会の運営を行う。</p> <p><b>【将来構想検討委員会】</b></p> <p>2025年4月の大阪阿倍野キャンパスへの短期大学部移転について、短期大学部移転プロジェクト会議において以下の内容が決定した。</p> <p>(ア) 設計事務所等との協議を重ね、講義室・実習室・個人研究室等の配置が決まり、基本設計が完成した。今後は、詳細設計に取りかかっていく。</p> <p>(イ) 内部の設備・備品等に関しては、第一看護学科、第二看護学科及び専攻科の各領域で協議を重ね、講義室・実習室の備品、その他必要な備品等を選別し、見積もりに取りかかっている。今後は、設備・備品等の詳細を検討する。また現在、</p>

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

大阪茨木キャンパス、大阪富田林キャンパスにある設備・備品等で大阪阿倍野キャンパスにおいて使用出来る物等を選別し、引越等を含めた2024年度予算の準備を進めていく。

### ク. 2022年度中に実施した高大連携講座等一覧

高校名	日程	内容
藍野高等学校	6月25日	高等学校保護者懇談会に参加 〔対応者〕第一看護学科長代理、学科長補佐、入試広報グループ職員 〔内容〕学科紹介、入試ガイダンス、質疑応答 3年生生徒91名、保護者57名
	7月5日	高校内ガイダンス 3年生 1名
明浄学院高等学校	3月13日	学校見学会 1・2年生：学校説明・学校見学・食堂体験 1年生：「体験授業～災害看護」 2年生：「保健師・助産師について」「入試全体説明」「個別相談会」 1年生51名 2年生8名
	4月26日	講座「災害と看護のチカラ」 1～3年 看護系進学コース 56名
樟蔭高等学校	6月21日	講座「赤ちゃん（新生児・乳児）のケアと看護のチカラ」 3年生 看護系進学コース 25名
	7月8日	高校内ガイダンス 3年生3名 2年生1名 1年生1名
	9月6日	講座「ここからは時を越えて」 1・2年生 看護系進学コース 36名
	11月22日	講座「ストーマを造設している人への社会生活支援」 2年生 看護系進学コース 17名
	1月24日	講座「地域で暮らす私～地域包括ケアシステム」 1・2年生 看護系進学コース 36名
	2月21日	高校内ガイダンス 2年生2名
大阪緑涼高等学校	5月20日	講座「看護進学に向けての準備・これから何をしていけば良いのか」 1年生 142名
	11月7日	講座「看護学～看護現場の問題点、改善策の仮設の立て方とは。現状の問題と改善策の模索」 2年生 理数系分野 20名
	11月16日	高校内ガイダンス 2年生7名
	1月26日	高校内ガイダンス 1年生11名
羽衣学園高等学校		実施無し
大阪府立東淀川高等学校		実施無し
奈良文化高等学校		実施無し

### ケ. 2022年度 オープンキャンパス参加者・資料請求数対比

入試状況			2022年	2021年	2020年	2019年
第一看護学科	来場者数	延数	159	147	98	113
		実数	81	86	70	93
	資料請求者数	233	175	168	215	
第二看護学科	来場者数	延数	121	194	198	235
		実数	95	144	148	199
	資料請求者数	5,349	5,676	4,686	4,563	
専攻科	来場者数	延数	1,085	678	358	200

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

	実数	286	234	187	168
	資料請求者数	528	594	560	418

### コ. 2023年度入学生 入学試験状況

入試状況			2023年	2022年	2021年	2020年	
第一看護 学科	志願 者数	延数合計	120	131	169	95	
		実数合計	120	130	155	95	
		実数 内訳	衛生看護	91	112	128	87
			養成校	29	18	27	8
	入学者数		118	124	140	92	
	入学定員充足率（%）		118.0	124.0	140.0	92.0	
第二看護 学科	志願 者数	延数合計	97	141	146	175	
		実数合計	90	133	140	152	
		実数 内訳	高校生	84	113	125	139
			社会人	6	20	15	13
	入学者数		77	93	100	96	
	入学定員充足率（%）		96.25	116.25	125.0	120.0	
専攻科	志願者数		330	374	279	228	
	入学者数		40	39	40	40	
	入学定員充足率（%）		100.0	97.5	100.0	100.0	

### タ. 2022年度 FD・SD 研修一覧

回		日程	内容	講師	参加人数
1	SD	8月23日	研究倫理とコンプライアンス	金沢大学医薬保健研究域 保健学系 理学療法科学講座 教授 細 正博	35名
2	SD	8月23日	【大学開催】 コンプライアンス 健全な研究活動のために	藍野大学 理学療法学科 特任教授 栗原 秀剛	35名
3	SD	8月23日	科研費公募説明会について	藍野大学 学生支援グループ 石川 由美 臨床工学科 講師 林 拓世	35名
4	SD	10月12日	教職員間のハラスメント防止 に向けて	藍野大学短期大学部 学長 足利 学	33名
5	FD SD	1月12日	学生への合理的配慮	藍野大学 作業療法学科 講師 尾藤 祥子	50名
6	SD	1月24日	認証評価制度と大学・短期大 学基準協会の第3期認証評価	学校法人藍野大学 副理事長 山本 嘉人	50名
7	SD	3月10日	教員研究業績発表	第一看護学科 学科長代理 准教授 上田 愛子 第一看護学科 助教 中西 佳奈子 第二看護学科 助教 佐藤 真	28名



## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）



### （4）藍野高等学校

[中期的な計画の進捗・達成状況]

#### ① 高大連携による重層的かつ一貫性のある教育システム

本校は藍野大学、藍野大学短期大学部のアドミッションポリシーを踏まえ、グループとして育成を目指す人材像を共有し、教育の連続性によって共通化される教育システムを構築すべく、2025年度目標の結果検証に向けて2022年度は藍野大学短期大学部との連携協定を結ぶ取り組みを行いました。

#### ② 藍野大学・藍野大学短期大学部へのグループ内進学強化

藍野大学、藍野大学短期大学部他の内部進学を行うべく、高大連携協議会を定期開催し、内部進学に関する成績条件面など協定内容の調整を進め正式な内部進学協定の締結をしました。本校としては、藍野大学への内部進学を希望する生徒には、その進学条件に適合させるための進路指導を行い、高大間合計7年での医療人材育成を行うシステムを強化していきます。

2022年度の内部進学者数は卒業生90名中、82名（藍野大学短期大学部第一看護学科80名、藍野大学医療保健学部看護学科1名・理学療法学科1名）となりました。

2025年度目標の内部進学者数100名以上に向けて、準備を進めましたが、2021年度の内部進学者数は卒業生104名中、96名（藍野大学短期大学部第一看護学科95名、藍野大学医療保健学部看護学科1名）となりました。

#### ③ 学習到達目標の設定による生徒の意欲と自己学習能力の向上

メディカルサイエンスコースでは各教科の基本プランの充実を促し、学習到達目標の設定を数値化、各学年での目標を明確にすることにより、生徒の学力向上やスキルアップを図るべく教育指導を行っています。

#### ④ 医療職の実情を体感し、能力・適性にあつた進路決定の支援

メディカルサイエンスコースでは、グループ校と連携した授業を展開し、看護系だけではなく医療職の知識を高めることで、自身に適した医療職を探求することを目標としています。大学入試の要件として、キャリアパスポートを導入し、学習成果の可視化ができる環境を整えることを2025年度目標としています。

#### ⑤ 衛生看護科の特徴を活かした生徒募集

入学した生徒のカリキュラム面での満足度を高めるとともに、藍野大学短期大学部への内部進学をはじめ、藍野大学等グループ内設置校への進学、その他進学面の指導において実績を上げ、さらに、高大連携の熟成を高め、新たなICT教育環境を整備活用したきめ細かい指導など本校独自の取り組

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

みを PR することで志願者増につなげることを目指しています。2025 年度目標の志願者数 170 名以上に対して、2022 年度の志願者数は、140 名となりました。新たな ICT 教育環境を整備活用したきめ細かい指導については、現在、導入ツール Slac 等のマッチングなど考察を行っています。

### ⑥校舎の老朽化への対応

現在の校舎は開学前からの残存建築物の流用であることから、老朽化への対応と共に耐震化対策が喫緊の課題です。2024 年 4 月より新校舎への移転方針が機関決定されており、2022 年度は法人事務局と協力し具体的な移転計画に向け新校舎及びそれに伴う機器備品等の具体的準備を開始しました。

### [事業計画の進捗・達成状況]

#### ①教育活動

藍野高等学校（以下「本校」という。）で学ぶ生徒の「興味・関心」、「能力・適性」等の多様化が顕著となる中で、将来を見据えた生徒一人ひとりの可能性を引き伸ばす教育を実践し、一般教科の基礎・基本的学力の定着と、看護教科の専門知識（衛生看護コース）、並びに各医療専門職に関連した知識（メディカルサイエンスコース）の習得を目標にした取り組みを行いました。

本校では、基礎学力の高い生徒（入学時の成績）の割合が年々多くなってきている一方で、下位層の生徒も例年一定数入学してきている現状があります。本校が継続的に取り組む大きな課題として、上位層の学力をより一層伸ばすとともに、下位層の基礎学力を引き上げていく必要があります。そのため、衛生看護コースにおいては、単に「准看護師試験合格」を目指すのではなく、卒業後、大半の生徒が進学する藍野大学短期大学部での「看護師国家試験合格」に繋げるため、一般教科での基礎学力の更なる向上と、看護教科においては高等学校卒業時における「看護師国家試験の必須問題」クリアを目標に下記のような取り組みを行いました。またメディカルサイエンスコースにおいては、「総合的な探究の時間」を活用して藍野大学との高大連携による論理的な思考を育てる授業を展開し、生徒個々の能力や職業適性を磨き、将来の職業選択のための幅を広げることができるような取り組みを行いました。

#### 一般教科の主な取り組み

- ・シラバスの作成（学習指導要領に即しているか）
- ・教科研修会への積極的な参加
- ・基礎力・実力診断テスト（英・数・国）の実施による生徒の学力把握と補習を含む学習指導の強化
- ・基礎力・実力診断テストによる学力グループの編成と検証
- ・定期考査の補習充実
- ・長期休暇中の課題・補講の実施
- ・学力底上げのための教材準備
- ・学習意欲の高い生徒への支援教材の作成
- ・朝学習の実施（生徒の主体的な学習の取り組み）

#### 看護教科の主な取り組み

- ・シラバスの作成（学習指導要領に即しているか）
- ・教科研修会への積極的な参加
- ・准看護師試験模擬試験の実施（1年生から計画的に実施）
- ・定期考査の補習充実

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

- ・長期休暇中の准看護師試験対策に関する補講（習熟度別）の実施
- ・看護レポートの書き方等についての表現力養成講座の実施

教育の内容・水準を担保するため、高等学校学習指導要領に沿った内容の授業が展開することはもちろん、より生徒の満足度を高めるための努力を行いました。具体的には、基礎力・実力診断テスト、定期考査の結果を受け、速やかに個別面談を行うとともに成績に応じた適切な教材を作成し、補講を行なうことで基礎学力を固めるとともに学習意欲の向上を図りました。また、教員の資質向上を図るため、教科研修会等に担当教員が積極的に参加し、その成果を教科指導に生かす取り組みなどを行いました。

一方、本校の教育方針である「高い学力と豊かな人間性を備え、将来の社会に貢献できる自立した医療人を育成する」の一環として、基本的な生活習慣とマナーの確立、自主性・主体性の伸長を目指し、挨拶の習慣化や家庭との連携を密にすることに努め、委員会活動・学校行事を通し指導を行いました。

本校の組織運営体制の改善・充実を図るために、学校評価（自己評価・学校関係者評価）を前年度に引き続き実施しました。引き続き PDCA サイクルの意識を高め、改善を進める体制を継続しています。看護専門科目については、以下の「教科目標」を定め、昨年度同様に継続して実施しました。

### 教科目標

看護医療に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、看護の本質と社会的な意義を理解させるとともに、国民の健康の保持増進に寄与する能力と態度を育てることを目標としています。

#### ア. 基礎看護

看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割を理解させるとともに、日常生活の援助及び診療における看護に関する基礎的な知識と技術を習得させ、看護を適切に行う能力と態度を育てる。

#### イ. 人体の構造と機能

看護を実践するために必要な人体に関する知識を習得させ、人体と生活及び環境との関係について理解させる。

#### ウ. 疾病の成り立ちと回復の促進

看護を実践するために必要な疾病、治療及び薬物に関する知識を習得させ、これらと疾病からの回復を促進させるための看護との関連について理解させる。

#### エ. 健康支援と社会保障制度

看護を実践するために必要な精神保健、生活者の健康及び社会保障制度に関する知識を習得させ、社会生活における医療と保健及び福祉との関係について理解させる。

#### オ. 成人看護

成人の心身、生活、保健及び疾病について理解させ、成人の看護に関する知識と技術を習得させるとともに、その看護を行うために必要な基礎的な能力と態度を育てる。

#### カ. 老年看護

高齢者の加齢、生活、保健及び疾病について理解させ、高齢者の看護に関する知識と技術を習得させるとともに、その看護を行うために必要な基礎的な能力と態度を育てる。

#### キ. 精神看護

精神看護の意義と役割及び精神に障害のある人の看護の実際を理解させ、精神看護に関する知識と技術を習得させるとともに、その看護を行うために必要な基礎的な能力と態度を育てる。

#### ク. 在宅看護

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

在宅看護の意義と役割及び看護の実際を理解させ、在宅での看護に関する知識と技術を習得させるとともに、その看護を行うために必要な基礎的な能力と態度を育てる。

### ケ．母性看護

母性の特質、生活、保健及び疾病について理解させ、母性の看護に関する知識と技術を習得させるとともに、その看護を行うために必要な基礎的な能力と態度を育てる。

### コ．小児看護

小児の特質、生活、保健及び疾病について理解させ、小児の看護に関する知識と技術を習得させるとともに、その看護を行なうために必要な基礎的な能力と態度を育てる。

### サ．看護臨地実習

看護に関する各科目において習得した知識と技術を臨床の場で活用し実践する経験を通して、看護観をはぐくみ、問題解決の能力を養うとともに、チーム医療に携わる様々な職種の役割及び保健医療福祉との連携・協働について理解し、臨床看護を行うために必要な能力と態度を育てる。

### シ．看護情報活用

社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させるとともに、情報の活用に関する知識と技術を習得させ、看護の分野で情報及び情報手段を主体的に活用する能力と態度を育てる。

## ②生徒指導・生徒支援体制

### ア．カウンセリング機能（相談体制）の充実と生活指導の強化

本校では、生徒の修学や日常的な場面の悩みなどに対して、適切かつ迅速に対応し、生徒が安心して学習に取り組むことができるように、継続した取り組みとして「心の専門家」である臨床心理士をスクールカウンセラーとして配置し、生徒指導担当等の教員と協力のうえ、学校内におけるカウンセリング機能（相談体制）の充実を図っています。

また、初期対応を重要視し、担任、生徒指導担当及び看護教員並びにスクールカウンセラーの定期的なミーティングにより生徒個々の特性を共有するなど、早期からの相談体制の継続した取り組みを行いました。

併せて、将来の医療人として、挨拶、身だしなみ、基本的な社会規範や生活習慣を身に付けさせるための生活指導の強化に努めました。

### 2022年度 スクールカウンセラー相談件数（前年度対比）

実施時期	延べ件数		増減
	2022年度	2021年度	
4月～6月	21	24	△3
7月～9月	6	22	△16
10月～12月	39	30	9
1月～3月	21	12	9
合計	87	88	△1

### イ．経済的支援

「学業成績優秀学生生徒給付奨学金制度」により、2年次以上の学業成績が優秀であり勉学意欲の旺盛な生徒5名（2年生2名、3年生2名）が本奨学金の給付を受けました。

## ③准看護師試験

新型コロナウイルス感染拡大の影響により准看護師試験対策もオンライン授業を中心に進めました。

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

直前の習熟度別の個別指導に力を入れるとともに、関西広域連合以外の他府県の准看護師試験についても積極的に受験するよう指導しました。結果として、関西広域連合等実施の准看護師試験では 87 名全員が合格することができました。

### 2022 年度卒業生 准看護師試験の結果

学 科	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)
衛生看護科	87	87	100

### ④進学・就職状況

#### 2022 年度 衛生看護科進学・就職状況

卒業生数 (人)	進学者数 (人)	就職者数 (人)	未定 (人)
90 (104)	90 (102)	0 (2)	0 (0)

※カッコ内の数値は前年度

### ⑤自己評価の実施

学校教育法及び同施行規則の学校評価に関する規定に基づき、2021 年度の教育活動その他の学校運営状況について設定した目標や具体計画の達成状況、取り組みの適切さ等の自己評価を行ないました。その結果を、保護者等による学校関係者で教育活動の観察や意見交換等を通じて評価を行ない、学校の状況に関する共通理解と連携体制を築くことができました。

また、その結果を対外的にも情報公開し、学校としての説明責任を果たすよう努めました。

### ⑥生徒募集活動

2022 年度は、大阪で唯一准看護師の資格取得が可能である「衛生看護コース」に限定し生徒募集を行いました。

藍野大学短期大学部第一看護学科（准看護師から看護師を養成する 2 年制コース）への進学により中学校卒業後 5 年間での看護師養成が可能であることを強くアピールできたことは、生徒募集面で好影響をもたらしました。

具体的な募集活動においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりオープンスクールの実施や従来型の中学校訪問活動において、昨年同様に多大な制約を余儀なくされました。その中で本校は、昨年同様の施策として本校の特徴や様子を伝えるための動画制作に注力し、YouTube 上への掲載と、中学生や保護者が利用している各種 SNS の掲示板等を積極的に活用する PR 戦略を展開しました。本校教員による授業動画、学内実習の様子、学校までのアクセス、オープンスクールに参加できなかった中学生のための当日の内容紹介、等々をコンテンツとした専用チャンネルを立ち上げ、15 本以上の動画を掲載しました。合計 15,358 回以上（2023 年 3 月 31 日現在）の再生回数が記録され、広報ツールとして特筆すべき効果をあげました。

さらに、集客力の高い外部の合同説明会等の外部イベント（大阪私立学校展、東淀川区 PTA 協議会説明会・五ツ木書房主催進学相談会・和歌山県中学校長会等）に積極的に参加するとともに、難しい訪問環境の中、従来型の中学校訪問や学習塾へのアプローチも可能な限り実施しました。

こういった取り組みが奏功し、最終的には出願者 140 名（昨年度 173 名）、入学者数 120 名（昨年度 150 名）の結果が得られました。近畿圏の看護系高等学校や大阪府内私立高等学校の半数以上が定員割れとなる中で、極めて顕著な募集成果として各校からの注目を浴びる結果となりました。



## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

### （5）明浄学院高等学校

[中期的な計画の進捗・達成状況]

#### ①高大連携による重層的かつ一貫性のある教育システム

本校は藍野大学、藍野大学短期大学部の、グループとして、普通科部門において、幅広く育成すべき目指す人材像を大学、短期大学とも共有し、教育の系統性によって共通化される教育システムを構築すべく、2025年度目標の結果検証に向けて2022年度は藍野大学短期大学部との連携協定を結ぶ取り組みを行いました。

#### ②藍野大学・藍野大学短期大学部へのグループ内進学強化

藍野大学、藍野大学短期大学部他への内部進学を行うべく、高大連携協議を定期的に開催し、内部進学に関する成績条件面などを協議、正式な内部進学協定の締結を行うための調整を進めました。本校としては、藍野大学をはじめグループ校への内部進学を希望する生徒には、その進学条件に適合させるための進路指導を行い、高大間の連携により本学の教育理念に基づいた医療人材育成を行うシステムの体制を強化しました。

2025年度目標の内部進学者数30名（看護メディカルコース）以上に向けて、準備を進めています。

#### ③学習到達目標の設定による生徒の意欲と自己学習能力の向上

看護メディカルコースでは各教科の基本プランの充実を促し、学習到達目標の設定を数値化、各学年での目標を明確にすることにより、生徒の学力向上やスキルアップを図るべく教育指導を行いました。

#### ④医療職の実情を体感し、能力・適性にあつた進路決定の支援

看護メディカルコースでは、グループ校と連携した授業を展開し、看護系だけではない幅広い医療職の知識を高めることで、自身に適した医療職を探求することを目標としています。大学、短期大学入学試験の要件として、キャリアパスポートを導入し、学習成果の可視化ができる環境を整えることを2025年度目標としています。

#### ⑤普通科の特徴を活かした看護メディカルコースにおける生徒募集

入学した生徒のカリキュラム面での満足度を高めるとともに、藍野大学短期大学部への内部進学をはじめ、藍野大学等グループ内設置校への進学、その他進学面の指導において実績を上げ、さらに、高大連携の熟成を高め、新たなICT教育環境を整備活用したきめ細かい指導など本校独自の取り組みをPRすることで、志願者増につなげることを目指しています。2025年度目標の志願者数300名以上に対して、2022年度の志願者数は、総数210名となりました。また看護メディカルコースにおいて募集定員36名に対して56の志願者がありました。今後、他のコースにおける志願者拡大を目指します。

#### ⑥新校舎での新たな学習環境の整備

2024年完成新校舎計画については、総合キャリアコースにおけるそれぞれの専攻授業対応、看護メディカルコースにおいては同じく整備された学習環境の設定など、充実した教育環境整備を完成させるべく、藍野高校とも協力しきめ細かい計画作成など準備を行いました。

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

[事業計画の進捗・達成状況]

### ①教育活動

明浄学院高等学校（以下「本校」という。）で学ぶ生徒の「興味・関心」、「能力・適性」等の多様化が顕著となる中で、将来を見据えた生徒一人ひとりの可能性を引き伸ばす教育を実践し、一般教科の基礎・基本的学力の定着と、総合キャリアコースの5専攻、看護メディカルコースでの動機付けおよび教科の専門知識の習得を目標にした取り組みを行いました。

一般教科の主な取り組み

- ・シラバスの作成（学習指導要領に即しているか）
- ・教科研修会への積極的な参加
- ・基礎力・実力診断テスト（英・数・国）の実施による生徒の学力把握と補習を含む学習指導の強化
- ・基礎力・実力診断テストによる学力グループの編成と検証
- ・定期考査の補習充実
- ・長期休暇中の課題・補講の実施
- ・学力底上げのための教材準備
- ・学習意欲の高い生徒への支援教材の作成
- ・朝学習の実施（生徒の主体的な学習の取り組み）

教育の内容・水準を担保するため、高等学校学習指導要領に沿った内容の授業が展開することはもちろん、より生徒の満足度を高めるための努力を行いました。具体的には、基礎力・実力診断テスト、定期考査の結果を受け、速やかに個別面談を行うとともに成績に応じた適切な教材を作成し、補講を行なうことで基礎学力を固めるとともに学習意欲の向上を図りました。また、教員の資質向上を図るため、教科研修会等に担当教員が積極的に参加し、その成果を教科指導に生かす取り組みなどを行いました。

一方、本校の教育方針である「明く 清く 直く」の精神の下、自立した女性」の育成を目指した。また、その一環として、基本的生活習慣とマナーの確立、自主性・主体性の伸長を目指し、挨拶の習慣化や家庭との連携を密にすることに努め、委員会活動・学校行事を通し指導を行いました。

本校の組織運営体制の改善・充実を図るために、学校評価（自己評価・学校関係者評価）を前年度に引き続き実施しました。引き続き PDCA サイクルの意識を高め、改善を進める体制を継続しています。各教科科目については、昨年度同様に目標を設定して継続して取り組みを実施しました。

### ②生徒指導・生徒支援体制

ア. カウンセリング機能（相談体制）の充実と生活指導の強化

本校では、生徒の修学や日常的な場面の悩みなどに対して、適切かつ迅速に対応し、生徒が安心して学習に取り組むことができるように、継続した取り組みとして「心の専門家」である臨床心理士をスクールカウンセラーとして配置し、生徒指導担当等の教員と協力のうえ、学校内におけるカウンセリング機能（相談体制）の充実を図りました。

また、初期対応を重要視し、担任、生徒指導担当及び看護教員並びにスクールカウンセラーの定期的なミーティングにより生徒個々の特性を共有するなど、早期からの相談体制の継続した取り組みを行いました。

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

併せて、将来の医療人として、挨拶、身だしなみ、基本的な社会規範や生活習慣を身に付けさせるための生活指導の強化に努めました。

### イ. 経済的支援

「学業成績優秀学生生徒給付奨学金制度」により、2年次以上の学業成績が優秀であり勉学意欲の旺盛な生徒5名（2年生2名、3年生3名）が本奨学金の給付を受けました。

### ③進学・就職状況

#### 2022年度 進学・就職状況

卒業生数（人）	進学者数（人）	就職者数（人）	その他（人）
66（81）	55（68）	4（2）	7（11）

※カッコ内の数値は前年度

### ④自己評価の実施

学校教育法及び同施行規則の学校評価に関する規定に基づき、2022年度の教育活動その他の学校運営状況について設定した目標や具体計画の達成状況、取り組みの適切さ等の自己評価を行いました。その結果を、保護者等による学校関係者で教育活動の観察や意見交換等を通じて評価を行ない、学校の状況に関する共通理解と連携体制を築くことができました。

また、その結果を対外的にも情報公開し、学校としての説明責任を果たすよう努めました。

### ⑤生徒募集活動

2022年度は、盛んなクラブ活動などを中心に、幅広く人材募集を行い150名の入学者を確保しました。

具体的な募集活動は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりその活動に、昨年同様多大な制約を余儀なくされた中、継続した施策として本校の特徴や様子を伝えるための動画制作やInstagramなどのSNSを積極的に活用し注力しPR戦略を展開しました。

また、オープンスクールの回数は前年度より増やし、内容は各回趣向を変えるなど中学生がより親しみを持って参加しやすいように工夫を凝らしました。中学校及び学習塾訪問活動も広報担当が戦略的かつ組織的に実施し、クラブ関係の募集についても昨年同様一定の成果は上げることはできました。

こういった取り組みで、女子高人気低下し、受験者数減少中という逆風状況の中ではありましたが、200名を超える志願者を受けました。

## (5) 管理運営の取り組み

### [中期的な計画の進捗・達成状況]

#### ①教職員の採用・育成

教育投資に見合う面倒見の良い学校づくりを進めるためには、教員及び事務職員が本法人に定着し、教育サービスや学修支援サービス等を安定的かつ継続的に供給する必要があります。そのため、教員及び事務職員の平均勤続年数をKPIとして設定し、目標値を達成するために、労働条件の改善や働き方改革を進めることとしました。2022年度における結果と具体的な取り組みは、以下のとおりです。

## 第二 事業の概要 (事業計画等の進捗達成状況)

KPI	2021 年度実績	2022 年度実績	2025 年度目標
教員の平均勤続年数	8 年 1 ヶ月	7 年 7 ヶ月	10 年 0 ヶ月
事務職員の平均勤続年数	10 年 1 ヶ月	10 年 2 ヶ月	10 年 0 ヶ月
人事評価の総合評価が B 以上の者の割合	26.0%	52.3%	45.0%

2022 年度実績詳細
<p>2022 年度の達成状況としては、<b>教員の平均勤続年数は 7 年 7 ヶ月、事務職員の平均勤続年数は 10 年 2 ヶ月</b>となりました。2022 年度に明浄学院高等学校の設置者変更を行ったことに伴い、2021 年度実績と比較し、教員の平均勤続年数はやや減少しましたが、事務職員の勤続年数は増加しました。</p> <p>また、本法人の経営基盤を安定化させ、充実した教育サービスを学生・生徒に提供するためには、事務職員の資質と能力の向上が不可欠です。そのため、事務職員における人事評価の総合評価が B 以上の者の割合を KPI として設定し、2022 年度実績では、<b>52.3%</b>となりました。</p>

### ②安定した財務基盤と積極的な投資

KPI	2022 年度実績	2025 年度目標
経常収支差額比率	12.3%	6.2%
教育研究経費比率	28.0%	32.0%

KPI	2022 年度実績	2025 年度目標
ファシリティ維持・更新計画の策定	大阪阿倍野キャンパスプロジェクトの推進	過年度実績より LCC の標準額を算出し、それを基づく額を予算化します
卒業生・在学生保護者との連携強化策の策定	Slack ゲストアカウント及び Google Workspace アカウントの物理的な供給準備	連携施策の実施

2022 年度実績詳細
<p>学生、教職員を繋ぐコミュニケーションツール Slack を全学に導入しました。Slack は教育やコミュニケーションの質向上が可能なツールでありながら、乱立したシステムを繋ぐコラボレーションハブツールであり、Slack 内ですべての業務を完結させるのが目的です。</p> <p>学生や教職員は、Slack 上で設置校、学部、学科等にとらわれず、コミュニケーションを行うことが可能となりました。現在、Slack のチャンネルを利用し、地域連携プロジェクト活動である 3's Café (さんず・かふえ) の営業時間の連絡や学生アルバイトの募集を行うチャンネル、図書館からの新刊の情報を発信するチャンネル、趣味の合う学生同士が集まるチャンネルなどが存在します。その他、Slack コネクトと呼ばれる機能により外部パートナー企業や他大学等とも接続し、合同研究や業務をより速やかに安全に進め、連携や情報共有するチャンネルも多く稼働しています。</p>

### [事業計画の進捗・達成状況]

2022 年度に取り組んだ本法人の管理運営の改善及び事業は、次のとおりです。

#### ①明浄学院高等学校との協創、4 キャンパス体制の確立

本法人は、学校法人明浄学院が運営する明浄学院高等学校を支援し、相互に一層の教育研究活動を発展させることを目的に、2022 年 4 月より明浄学院高等学校は学校法人藍野大学を運営母体として設置者を変更することで合意し、2020 年 8 月 18 日に支援契約を締結しました。建学の精神「明く・浄く・直く」を掲げる学校法人明浄学院の 100 年の歴史と伝統を受け継ぐ教育とブランド力を活かし、大阪阿倍野キャンパスで再建を図ることを前提に、人的支援・物的支援・資金的支援を継続的に行ってまいりました。

2022 年度も 2020 年度、2021 年度に引き続き、教育活動や部活動等の充実と施設・設備への投資を通じて、入学定員充足率の回復と明浄学院高等学校単体として収支が均衡する状態を目指し支援を

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

継続しました。

なお、現在、大阪阿倍野キャンパスプロジェクトに基づいて、明浄学院高等学校と藍野高等学校の統合のシンボルとなる4階建の新校舎を建設すべく準備を進めています。（2024年4月竣工予定）

その他、藍野大学短期大学部の第一看護学科、専攻科及び第二看護学科を大阪阿倍野キャンパスの新校舎に移転し、未来を拓く新たな智の拠点としてこれまでにない教育研究活動を展開していく予定で準備を進めています。（2025年4月竣工予定）

### 新校舎（高等学校）完成予想イメージ図



### ②大阪府「都市緑化を活用した猛暑対策事業」への取り組みについて（摂津富田駅前スクールバス停留所の猛暑対策）（法人事務局総務センター）

本法人は、「都市緑化を活用した猛暑対策事業」として、摂津富田駅前スクールバス停留所において、猛暑対策事業を実施しました。

本事業は、大阪府が実施する都市緑化を活用した猛暑対策事業の対象となっており、1,500万円を上限として大阪府から事業費が助成されるものである。この制度を活用し、スクールバス停留所上屋に微細ミストの設置および周辺に樹木を植栽する等、猛暑対策を行いました。



#### <事業の概要>

- ・実施場所：JR 摂津富田駅前スクールバス停留所
- ・環境改善設備等の種類：既設スクールバス停留所上屋に微細ミストの設置、緑陰を形成するよう周辺に樹木を植栽
- ・実施期間：2023年2月～3月（工事实施）  
2023年7月～9月（暑熱環境改善の定量的な効果について調査・把握、大阪府への報告等）

### ③広報戦略（法人事務局総務センター総務グループ）

#### ア．学校法人藍野大学の知名度向上

前年度に引き続き、学校法人藍野大学全体の知名度向上のため、主要施設等への看板設置、メディアへのプレスリリースを行いました。

学校法人全体パンフレットについては、前年度に引き続き、一般的なA4サイズではなく、正方形という特徴的な形にしました。自身の情報を簡潔にまとめることで、本法人の設置校の特色をより分



## 第二 事業の概要 ( 事業計画等の進捗達成状況 )

かりやすく伝えられるよう工夫しました。

また、日本私立学校振興・共済事業団の融資を利用した学校として藍野大学の新校舎「メディカル・ラーニング・コモンズ棟（通称：M・L・C）」についての取材撮影を受け、「月報私学 vol.299（2022.11 発行）」の表紙に掲載されました。中面には、地域に開かれた「医療を学ぶ場所」として、ICT や IoT の活用によるアクティブ・ラーニングの展開、地震などの災害時に福祉避難所や一時避難所として地域に開放する仕組み等について紹介されました。

さらに、学校法人全体紹介動画及びミズノ株式会社との「臨床実習ユニフォーム」共同制作に関する動画を新たに制作し、本法人公式

YouTube において配信しました。学校法人全体紹介動画においては、明浄学院高等学校が本法人の設置校として加わったことを盛り込み、WEB 広告の配信や本法人公式ホームページのトップ画面に起用することで広く世間に周知することができました。



### イ. 地域連携

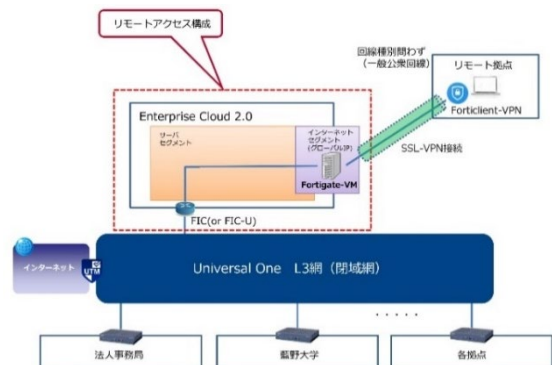
今年度は、地域連携の強化のため、全国中学校駅伝大会滋賀県実行委員会主催の「令和 4 年度全国中学校体育大会 第 30 回全国中学校駅伝大会」へのプログラム協賛及び藍野高等学校が主幹事務局校を務めた「第 53 回全国看護高等学校研究協議大会」への広告協賛、八日市商工会議所青年部事業主催の「East Rainbow 18th」への看板協賛を行いました。また、明浄学院高等学校吹奏楽部 第 50 回定期演奏会のパンフレットへ広告を掲載し、2024 年 4 月に大阪阿倍野キャンパスに新校舎が竣工することについて PR を行うことができました。



### ④情報インフラネットワークの発展的な利用 ( 法人事務局総務センター総務グループ )

ア. ウィズコロナ、アフターコロナ時代に求められるリモート環境の構築による新たな働き方の推進

テレワークをする個人PCからFortiClient-VPNを利用してFortiGateを介して本法人ネットワークに接続し、各部署のNASやUNO直結クラウドサーバECL2.0に格納されている基幹システムや各種ファイルサーバにセキュアに接続を可能とし、遠隔地からも変わらず勤務できることを実証しました。今後、新型コロナウイルス感染症に限らず、家庭の事情による遠隔地からの勤務や、育児・介護時に自宅での業務、出張先や急な出勤困難時にカフェや公共の場などからも業務を可能とし、通勤時間、残業時間の削減を行いながら多様な働き方を可能としました。



## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

### イ. コミュニケーションツール Slack の導入

学生、教職員を繋ぐコミュニケーションツール Slack を全学に導入しました。Slack は教育やコミュニケーションの質向上が可能なツールでありながら、乱立したシステムを繋ぐコラボレーションツールであり、Slack 内ですべての業務を完結させるのが目的です。

学生、教職員は、Slack 上で設置校、学部、学科にとらわれず、コミュニケーションを行うことが可能となりました。現在、Slack のチャンネルを利用し、地域連携プロジェクト活動である 3's Café（さんず・かふえ）の営業時間の連絡や学生アルバイトの募集を行うチャンネル、図書館からの新刊の情報の発信するチャンネル、趣味の合う学生同士が集まるチャンネルなどが存在します。

その他、Slack コネクトと呼ばれる機能により外部パートナー企業や他大学等とも接続し、合同研究や業務をより速やかに安全に進め、連携や情報共有するチャンネルも多く稼働しています。また、Salesforce 社 Slack 事業統括本部が企画する教育機関向け・Slack 活用ウェビナーへの教職員と学生の登壇や JCN（Slack Japan Champions Network）コミュニティの教育分科会への積極的に参加など、教職員、学生アンバサダーが一丸となった導入への取り組みが評価され、国内の大学・教育機関として初めて Slack Japan Customers Award 2023 を受賞しました。



### ウ. シングルサインオン（SSO）の導入

Slack 等各種システムへセキュアなログインを可能とするためにグルージェントゲートによるシングルサインオン（SSO）を構築し、一度の認証で各システムにできる仕組みを構築しました。SSO 導入に伴い Google Workspace for Education が全学的に導入しました。これにより Slack にセキュアにログインし、gmail や Google カレンダー、クラウドストレージの Google Drive が全学的に使用できます。Google Drive を Slack 上で利用することにより、スプレッドシートによる複数人同時にファイルの操作や共有ができるようになり、今まで各設置校担当者ごとにメールを送り、情報を集め、マージしていた作業が改善されました。

### ⑤環境省採択事業「令和 4 年度 地方公共団体及び事業者等による食品廃棄ゼロエリア創出の推進モデル事業等」（法人事務局総務センター総務グループ）



#### AINO TOWN 食品廃棄ゼロエリア創出プロジェクト

大阪茨木キャンパス（藍野大学、藍野大学短期大学部、藍野高等学校）において、学生・生徒の食品ロス削減の意識涵養、学生食堂における食品廃棄ゼロの実現を目的に、啓発冊子や啓発パネルの導入、学内連携による食事準備量の最適化、食堂におけるごはん量の選択制の導入等を実施しました。「残さず食べ切る」を徹底した上でも生じる廃棄は、生ごみ処理機を活用して液肥としました。

## 第二 事業の概要 (事業計画等の進捗達成状況)

事業の概要	
事業の概要	<p>●<b>学生への食品ロス削減の意識涵養の取組</b></p> <p>食品ロスに関するアンケート調査を実施（2022年7月、2022年12月。アンケート自体にも啓発効果を持たせた。）</p> <p>啓発効果のある取り組みとして、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 食品ロス啓発冊子の配布</li> <li>(2) 学生がデザインした啓発パネルの設置、</li> <li>(3) フードドライブ、フードパントリー活動</li> <li>(4) 『学生食堂』における食品廃棄ゼロに向けた取組を実施しました。</li> </ol> <p>●<b>学生食堂における食品廃棄ゼロの実現に向けた取組</b>  <u>(実施期間：2022年6月20日～2023年2月28日)</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学内連携による食事準備量の最適化</li> <li>(2) 食べ切れるごはん量の導入（小盛、普通、大盛）</li> <li>(3) 調理くずの削減に向けた工夫</li> <li>(4) 食べ残しが多い品目に関する啓発</li> <li>(5) 生ごみ処理機の活用（液肥は学内で園芸利用）</li> </ol> <p>を実施しました。</p>
効果検証の方法	<p>●<b>食品ロスに関する啓発活動前後の認知度・取組状況の比較</b></p> <p>食品ロスに関するアンケート調査結果について、普及啓発活動前後として2022年7月と12月を比較しました。</p> <p>●<b>学生食堂におけるごはん量別の提供数、食品廃棄物の発生量の調査</b></p> <p>●<b>「生ごみ処理機に投入・活用できなかった食品廃棄物の発生量」（本事業でゼロを実現すべき対象）の調査</b></p>
実施費用	<p><b>1,461千円（内、430千円は補助金対象）</b></p> <p>啓発ガイドブック作成費、生ごみ処理機リース料、アンケート調査費          啓発ポスター作成費、イーゼル費</p>
実施体制	<p>●<b>法人事務局総務センター</b>          （プロジェクト計画・管理）</p> <p>●<b>法人事務局総務センター総務グループ</b>          （実作業を担当、学内外の各種調整やツール作成）</p> <p>●<b>大阪茨木キャンパス事務局</b>          （大学・短期大学内における意識涵養ツールの展開）</p> <p>●<b>藍野高等学校事務センター</b>          （高等学校内における意識涵養ツールの展開）</p> <p>●<b>株式会社藍野大学事業部</b>          （学生食堂での食品廃棄物削減プログラムの実施）</p>



## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

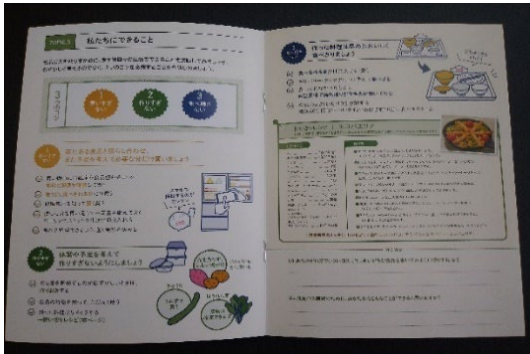
事業の成果・課題・展望	
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>●<b>学生への食品ロス削減の意識涵養の取組</b>                (1)学内 2,034 名に啓発冊子を配布。電子データは HP でも公開。                (2)学生が作成した啓発パネル（計 4 点）を食堂に常設しました。</li> <li>●<b>学生食堂における食品廃棄ゼロの実現に向けた取組</b>                (3)調理くずの削減に向け、食事メニューのサンプルを現物から写真に変更しました。（2022 年 11 月より順次実施中）                (4)ごはん/ミニトマト/グリーンリーフが食べ残しされやすいことを受け、ポスター設置、ドレッシングの追加設置を実施しました。</li> <li>●<b>波及効果</b>：2023 年春に市内大学や飲食店と共同で、啓発活動実施を計画しました。また、他大学との情報交換も実施しました。</li> </ul>
事業の成果 (定量成果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●<b>高校生における食品ロスに関する啓発活動前後の認知度・取組状況が向上</b>（高校生の回答率は 96.5%、83.2%。）                食品ロスの認知度は元々高く、啓発前後で 4pt 増加しました。                （72.7%→76.8%）                料理を残さず食べるに取り組む学生は 8.3pt 増加しました。                （66.0%→74.3%）                食べ切れる分だけ買うに取り組む学生は 7.1pt 増加しました。                （45.0%→52.1%）</li> <li>●<b>学生食堂における食品廃棄物・食品ロスの発生量が削減</b>                啓発前後ともに「小盛」の提供割合は、2～3割。潜在的にご飯を食べ切れない学生が存在していた可能性が考えられました。  <b>定食の食べ残しの発生量が減少しました。</b>                （6月：4.2g/食 → 啓発後：平均 2.5g/食）  <b>その他の食品廃棄の発生量が減少しました。</b>                （6月：16.2g/食 → 啓発後：平均 7.9g/食）</li> <li>●<b>「生ごみ処理機に投入・活用できなかった食品廃棄物の発生量」の調査</b>                全量を生ごみ処理機に投入し、全ての液肥を学内で活用。                → <b>事業期間を通じて「食品廃棄ゼロ」を実現できました。</b></li> <li>●<b>フードドライブ・フードパントリー活動</b>                本学への寄付数：146 品、学生への配布数：106 品</li> </ul>
事業の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●<b>大学生はアンケート回答率が 15.8%→31.1%と増加したが、認知度や取組状況は後退しました。</b>                アンケート回答に協力しない学生については、食品ロス削減の意識涵養が十分進んでいないと推察されました。</li> <li>●<b>大学生・教職員の一部より、お弁当が売り切れに対する改善要望も挙げられました。</b></li> </ul>

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

### 事業の展望

- 本取組を継続し、食品ロス削減の意識の涵養をより図ることで、「食品廃棄ゼロエリア」の継続的な実現を目指す。
- 液肥の活用を学生により認知されるよう、水耕栽培装置を導入し、学生ボランティアに栽培協力をいただく予定。

図表 本学独自の啓発ガイドブック



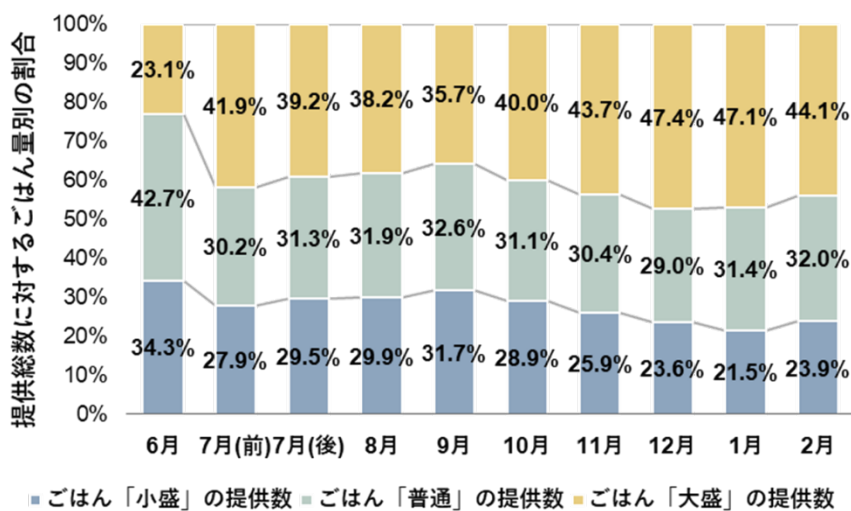
図表 食事メニューの写真化



図表 啓発パネルの設置例



図表 学生食堂におけるごはん量別の提供割合



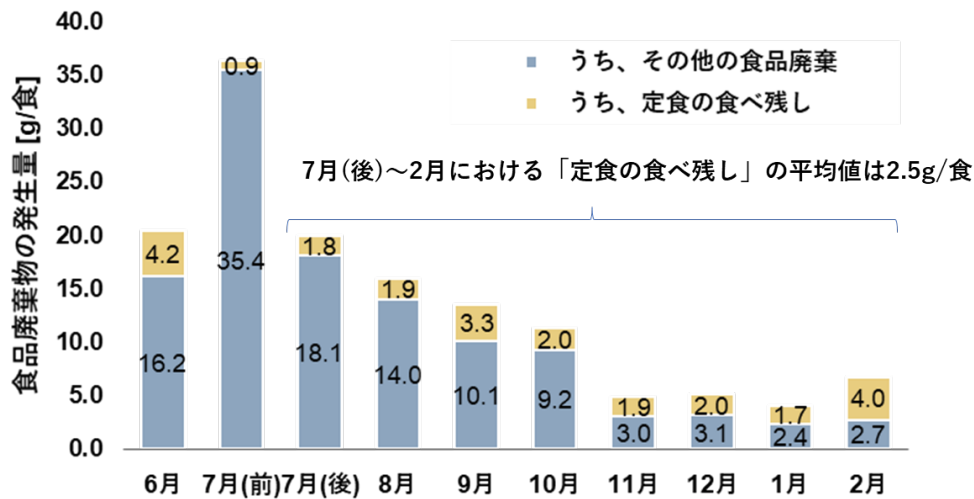
## 第二 事業の概要 ( 事業計画等の進捗達成状況 )

図表 食品廃棄物

調査月		6月	7月(前)	7月(後)	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
食品廃棄物の発生量	kg/日	7.2	5.9	3.5	2.2	1.5	2.0	1.0	1.0	0.8	0.9
うち、 定食の食べ残し	kg/日	1.5	0.2	0.3	0.3	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.5
うち、 その他の食品廃棄	kg/日	5.7	5.8	3.2	1.9	1.2	1.6	0.6	0.6	0.5	0.4

※7月(前): 啓発活動前(啓発冊子の配布・アンケート実施を行う前)の7/1~7/6

図表 1食当たりの平均廃棄量の推移



※7月(前)は営業日が限られ、提供メニューの影響を受けている可能性がある

※7月(前): 啓発活動前(啓発冊子の配布・アンケート実施を行う前)の7/1~7/6

# 第三 財務の概要

## 第三 財務の概要

### 1. 決算の概要

#### (1) 貸借対照表関係

##### ①貸借対照表の状況と経年比較

(単位：千円)

年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
固定資産	11,669,692	14,068,843	15,611,784	14,153,156	19,649,974
流動資産	5,068,516	3,564,855	2,742,459	4,180,396	2,299,311
資産の部合計	16,738,208	17,633,698	18,354,243	18,333,552	21,949,286
固定負債	2,425,530	2,909,812	3,689,843	2,368,095	2,066,268
流動負債	2,570,011	3,018,400	3,066,915	4,160,748	3,279,655
負債の部合計	4,995,542	5,928,212	6,756,758	6,528,843	5,345,924
基本金	16,245,503	16,014,947	16,770,087	17,113,577	23,094,369
繰越収支差額	△4,502,836	△4,309,462	△5,172,602	△5,308,867	△6,491,007
純資産の部合計	11,742,666	11,705,485	11,597,485	11,804,709	16,603,362
負債及び純資産の部合計	16,738,208	17,633,698	18,354,243	18,333,552	21,949,286

※単位表示は、千円未満切り捨てのため、合計等が一致しない場合があります。

##### ②財務比率の経年比較

比率名	算式	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	全国平均
運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産} - \text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	0.7年	0.04年	-0.3年	-0.1年	0.085年	0.94年
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	197.2%	118.1%	89.4%	100.5%	70.1%	237.0%
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	29.8%	33.6%	36.8%	35.6%	24.4%	17.4%
前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	224.4%	155.2%	108.8%	107.5%	81.7%	348.3%
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	95.4%	85.0%	86.6%	88.3%	91.7%	95.9%
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	87.1%	69.0%	53.2%	55.4%	44.0%	77.8%

※財務比率につきましては、原則、小数点以下第2位を四捨五入して小数点第1位まで記入しています。

※全国平均は日本私立学校振興・共済事業団 私学経営情報センター 私学情報提供システムにおける「令和3年度財務比率表(大学法人(系統：保健系学部))」によります。

#### (2) 資金収支計算書関係

##### ①資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

収入の部	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
学生生徒等納付金収入	3,010,921	2,904,022	3,004,509	3,254,038	3,641,467
手数料収入	56,760	61,101	64,129	65,211	64,099
寄付金収入	2,565	6,063	9,088	58,575	431,280
補助金収入	422,620	425,060	572,091	606,327	841,387
資産売却収入	0	0	6,121	0	0
付随事業・収益事業収入	86,263	81,605	68,566	87,911	107,840
受取利息・配当金収入	78	52	1,682	1,989	2,253
雑収入	118,145	102,873	64,848	85,707	69,287

### 第三 財務の概要

借入金等収入	1,552,000	348,000	1,000,000	0	0
前受金収入	2,240,868	2,260,035	2,484,611	2,629,937	2,751,434
その他の収入	35,901	49,503	29,540	31,021	21,469
資金収入調整勘定	△2,359,252	△2,265,155	△2,269,548	△2,505,695	△2,697,250
前年度繰越支払資金	3,744,197	5,027,758	3,507,546	2,704,003	2,827,960
収入の部合計	8,911,070	9,000,919	8,543,187	7,019,029	8,061,230
支出の部	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
人件費支出	1,857,632	1,887,411	2,141,229	2,264,257	2,533,095
教育研究経費支出	691,063	813,617	823,181	850,872	1,044,515
管理経費支出	464,633	524,364	463,976	386,591	452,160
借入金等利息支出	7,285	11,466	14,010	17,213	9,990
借入金等返済支出	197,875	183,325	144,996	218,646	1,220,106
施設関係支出	595,851	2,076,116	239,670	16,159	339,810
設備関係支出	99,686	508,744	261,283	60,851	112,838
資産運用支出	0	200,000	200,000	200,000	0
その他の支出	83,535	109,326	1,841,493	293,911	218,893
資金支出調整勘定	△114,251	△820,998	△290,656	△117,434	△117,131
翌年度繰越支払資金	5,027,758	3,507,546	2,704,003	2,827,960	2,246,952
支出の部合計	8,911,070	9,000,919	8,543,187	7,019,029	8,061,230

※単位表示は、千円未満切り捨てのため、合計等が一致しない場合があります。

#### ②活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	3,697,276	3,565,087	3,783,233	4,157,771	5,115,712
教育活動資金支出計	3,013,330	3,225,393	3,428,387	3,501,721	4,029,771
差引	683,946	339,693	354,845	656,049	1,085,941
調整勘定等	△99,143	359,085	△104,285	114,084	110,690
教育活動資金収支差額	584,802	698,779	250,560	770,134	1,196,632
施設設備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	0	15,638	6,121	0	39,650
施設整備等活動資金支出計	695,538	2,784,860	700,954	227,010	452,648
差引	△695,538	△2,769,222	△694,833	△277,010	△412,998
調整勘定等	27,560	372,158	106,801	△156,897	△136,047
施設設備等活動資金収支差額	△667,977	△2,397,064	△588,031	△433,907	△549,046
小計（教育活動資金収支差額+施設設備等活動資金収支差額）	△83,174	△1,698,284	△337,471	336,226	647,585
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	1,576,335	388,536	1,004,247	24,185	2,820
その他の活動資金支出計	209,600	210,463	1,470,385	236,651	1,231,120
差引	1,366,734	178,073	△466,138	△212,466	△1,228,300
調整勘定等	0	0	66	197	△292
その他の活動資金収支差額	1,366,734	178,073	△466,071	△212,269	△1,228,593
支払資金の増減額（小計+その他の活動資金収支差額）	1,283,560	△1,520,211	△803,543	123,956	△581,007
前年度繰越支払資金	3,744,197	5,027,758	3,507,546	2,704,003	2,827,960

# 第三 財務の概要

翌年度繰越支払資金	5,027,758	3,507,546	2,704,003	2,827,960	2,246,952
-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------

※単位表示は、千円未満切り捨てのため、合計等が一致しない場合があります。

## ③財務比率の経年比較

### 教育活動資金収支差額比率

比率名	算式	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	全国平均
教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	15.8%	19.6%	6.6%	18.5%	23.4%	11.3%

※財務比率につきましては、原則、小数点以下第2位を四捨五入して小数点第1位まで記入しています。

※全国平均は日本私立学校振興・共済事業団 私学経営情報センター 私学情報提供システムにおける「令和3年度財務比率表(大学法人(系統:保健系学部))」によります。

## (3) 事業活動収支計算書関係

### ①事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位:千円)

		科目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	3,010,921	2,904,022	3,004,509	3,254,038	3,641,467
		手数料	56,760	61,101	64,129	65,211	64,099
		寄付金	2,565	10,264	11,491	59,416	433,799
		経常費等補助金	422,620	409,422	572,091	606,327	801,737
		付随事業収入	86,263	81,605	68,566	87,911	107,840
		雑収入	119,820	104,364	66,941	87,944	84,320
		教育活動収入計	3,698,951	3,570,780	3,787,728	4,160,850	5,133,264

		科目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
教育活動収支	事業活動支出の部	人件費	1,857,632	1,888,911	2,143,429	2,264,857	2,533,095
		教育研究経費	983,525	1,036,149	1,206,174	1,240,508	1,453,069
		管理経費	511,350	566,211	504,044	423,289	493,888
		徴収不能額等	0	0	0	0	13,867
		教育活動支出計	3,352,508	3,491,272	3,853,648	3,928,655	4,493,921
教育活動収支差額			346,442	79,507	△65,919	232,195	639,343

		科目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	78	52	1,682	1,989	2,253
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	78	52	1,682	1,989	2,253
	事業活動支出の部	科目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
		借入金等利息	7,285	11,466	14,010	17,213	9,990
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	7,285	11,466	14,010	17,213	9,990
教育活動外収支差額			△7,207	△11,413	△12,327	△15,223	△7,736

経常収支差額			339,235	68,093	△78,246	216,971	631,606
--------	--	--	---------	--------	---------	---------	---------

		科目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	0	3,465	0	0
		その他の特別収入	0	15,638	31,298	8,334	4,178,872
		特別収入計	0	15,638	34,763	8,334	4,178,872
	事業活動支出の部	科目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2022年度
資産処分差額	17,940	120,912	64,517	18,082	11,826		

# 第三 財務の概要

	その他の特別支出	0	0	0	0	0
	特別支出計	17,940	120,912	64,517	18,082	11,826
特別収支差額		△17,940	△105,274	△29,753	△9,747	4,167,046
予備費						
基本金組入前当年度収支差額		321,294	△37,180	△108,000	207,224	4,798,652
基本金組入額合計		0	△200,000	△755,139	△343,489	△5,980,792
当年度収支差額		321,294	△237,180	△863,140	△136,265	△1,182,139
前年度繰越収支差額		△4,827,843	△4,502,836	△4,309,462	△5,172,602	△5,308,867
基本金取崩額		3,711	430,555	—	—	—
翌年度繰越収支差額		△4,502,836	△4,309,462	△5,172,602	△5,308,867	△6,491,007

(参考)	事業活動収入計	3,699,029	3,586,470	3,824,175	4,171,175	9,314,390
	事業活動支出計	3,377,734	3,623,651	3,932,176	3,963,950	4,515,738

※単位表示は、千円未満切り捨てのため、合計等が一致しない場合があります。

## ②財務比率の経年比較

比率名	算式	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	全国平均
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	50.2%	52.9%	56.6%	54.4%	49.3%	49.9
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	26.6%	29.0%	31.8%	29.8%	28.3%	36.4%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	13.8%	15.9%	13.3%	10.2%	9.6%	9.2%
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	8.7%	-1.0%	-2.8%	5.0%	51.5%	4.7%
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	81.4%	81.3%	79.3%	78.2%	70.9%	49.9%
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	9.2%	1.9%	-2.1%	5.2%	12.3%	4.3%

※財務比率につきましては、原則、小数点以下第2位を四捨五入して小数点第1位まで記入しています。

※全国平均は日本私立学校振興・共済事業団 私学経営情報センター 私学情報提供システムにおける「令和3年度財務比率表(大学法人(系統:保健系学部))」によります。

## 2. その他

### (1) 有価証券の状況

区分	銘柄	数量	帳簿価額	時価	表示科目
株式	(株) 藍野大学事業部	400口	20,000千円	—	有価証券
計		400口	20,000千円		

※非上場株式であり、市場価額はありません。

### (2) 借入金の状況

(単位:千円)

借入先	期末残高	利率	返済期限	担保等
日本私立学校振興・共済事業団	1,526,370	0.01% 0.50% 0.50%	2026年3月17日 2038年9月15日 2039年9月15日	土地・建物 土地・建物 土地・建物
りそな銀行	420,016	0.30182%	2030年3月29日	土地・建物
合計	2,166,252	—	—	—

### (3) 学校債の状況

本法人は、学校債の発行はしておりません。

## 第三 財務の概要

### (4) 寄付金の状況

本法人は租税特別措置法施行令第26条の28の2第1項第2号に規定する要件を満たす法人として、卒業生や保護者、教職員、民間団体・企業などを対象とし、本法人が設置する学校の教育・研究活動及び教育・研究環境（施設設備）の充実のために必要な経費に充当することを目的に寄付金募集を行っています。

2022年度は、通常的一般寄付のほか、明浄学院高等学校の統合に伴い、同校に係る寄付金424,541千円が一般寄付金収入に含まれています。

2022年度 寄付金募集状況 (単位：千円)

対象	種類	件数	金額
4月～3月	一般寄付金収入	6件	428,580

### (5) 補助金の状況

2022年度における補助金交付額は841,387千円となりました。内訳は以下のとおりです。

(単位：千円)

補助金名称	対象校	交付額
私立大学等経常費補助金	大学・短期大学部	204,477
授業料等減費交付金	大学・専門職大学・短期大学部	161,461
大阪府結核対策補助金他	大学・専門職大学・短期大学部・高等学校	978
大阪府私立高等学校等経常費補助金	高等学校	320,401
大阪府他高等学校等授業料支援補助金	高等学校	111,551
私立学校施設整備費補助金	高等学校	24,650
大阪府私立高等学校等就学支援金事務費他	高等学校	2,187
大阪府都市緑化を活用した猛暑対策事業補助金他		15,680
合計		841,387

### (6) 収益事業の状況

該当事項はありません。

### (7) 関連当事者等との取引の状況

#### ① 関連当事者

(単位：千円)

属性	役員、法人等の名称	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権の所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額	勘定科目	期末残高
					役員の兼任等	事業上の関係				
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している法人	医療法人恒昭会(茨木市高田町)	-	病院	-	兼任2人	実習施設	健康診断委託等	32,127	-	
							実習費	9,033	-	
						賃貸契約	賃貸収入	35,312	前受金	228



# 第三 財務の概要

## ②出資会社

(単位：千円)

会社の名称	事業内容	資本金等	出資割合		取引の内容	役員の兼任・報酬の有無等
			学校法人	その他		
株式会社 藍野大学事業部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書籍販売、各種物品販売業務</li> <li>・施設設備のメンテナンス業務</li> <li>・人材派遣業務</li> <li>・学生食堂・コンビニ経営</li> <li>・運用SE業務</li> </ul>	20,000	20,000 (100%)	0 (0%)	書籍、各種物品販売、施設設備のメンテナンス、人材派遣、学生食堂、コンビニ経営等を行い、教育研究活動の満足度向上に貢献している	兼任2人 報酬無し

### (8) 学校法人間財務取引

該当事項はありません。

## 3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

本法人は、施策の実施と将来投資を実現するための財政基盤を確立するため、中長期財政計画に掲げる数値目標、日本私立学校振興・共済事業団が示している「定量的な経営状態の区分（以下、「経営状態の区分」という。）に記載された区分及び同規模、同系列の他大学や日本私立学校振興・共済事業団発行の「今日の私学財政」上の指標を基にマネジメントすることを基本方針としています。

本法人の予算は、策定している中期財務計画に基づき執行しています。この中期財務計画は、過去の実績及び設置校ごとの個別戦略を考慮した着地見込みを勘案し、「経営状態の区分」における正常状態の「A3」を目標に作成され、状況変化が生じたときや予算編成時、決算確定時に更新されています。既定の予算に基づき予算執行することで、当該年度の教育研究活動を着実に遂行し、将来計画のための財政基盤を確保することが可能となっています。

毎月の全設置校の学生生徒在籍者数及び月次資金収支計画書について法人事務局経営企画センターから、各設置校の管理職教職員、常務理事、副理事長及び理事長で構成する合同運営委員会に報告が行われ、現状を共有することで適時適切な対応を各権限者が行うことができる仕組みとなっています。さらに、より適切な経営判断を行うことができるよう、予算・決算の都度入学定員充足率、収容定員充足率等をもとに各設置校ごとのセグメント別事業活動収支計算書を作成し、理事会・評議員会においてその推移と課題をも含めた分析結果を報告しています。

その結果、2008年度には経営状態が当時の指標でレッドゾーンとされる「B4」だったものが、2013年度には正常状態である「A2」まで回復し、その後2021年度まで「A3」、2022年度には再び「A2」となり、安定した経営状態を保持し続けることができました。

2022年度決算は、明浄学院高等学校の設置者変更により、明浄学院高等学校に係る財産（資産・負債）を引き受けるとともに、明浄学院高等学校の事業活動収支を通期で取り込んだ影響が特筆すべき事項として挙げられます。明浄学院高等学校が有していた現金424,541千円を一般寄付金として計上しています。また、明浄学院高等学校の設置者変更に伴う資産（主に校地・校舎）の無償譲渡と債務の引継ぎによる資産（時価）・負債の差額4,133,000千円を現物寄付として計上しています。

2022年度の事業活動収支計算書における教育活動収支差額は639,343千円のプラス収支となり、利息等を加減した後の経常収支差額は631,606千円と、前期比415,000千円程度良化した形となりますが、これには明浄学院高等学校の設置者変更手続きによる一般寄付金が含まれるため、この影響額である424,541千円を控除すると、実態の経常収支差額は207,000千円程度となります。よって、2022年度は2021年度経常収支差額216,971千円と同水準のプラス収支となりました。

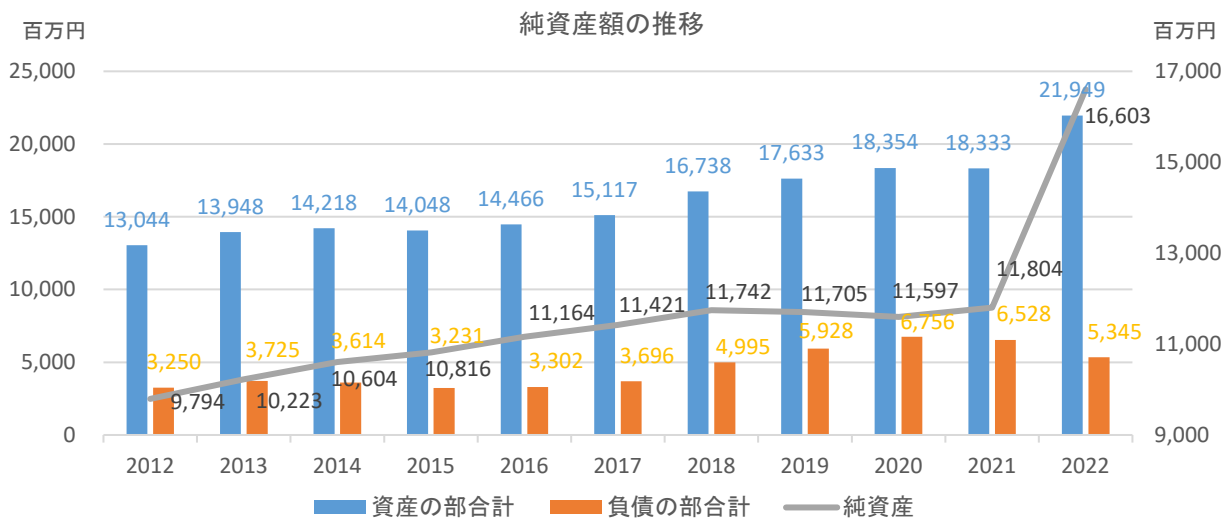
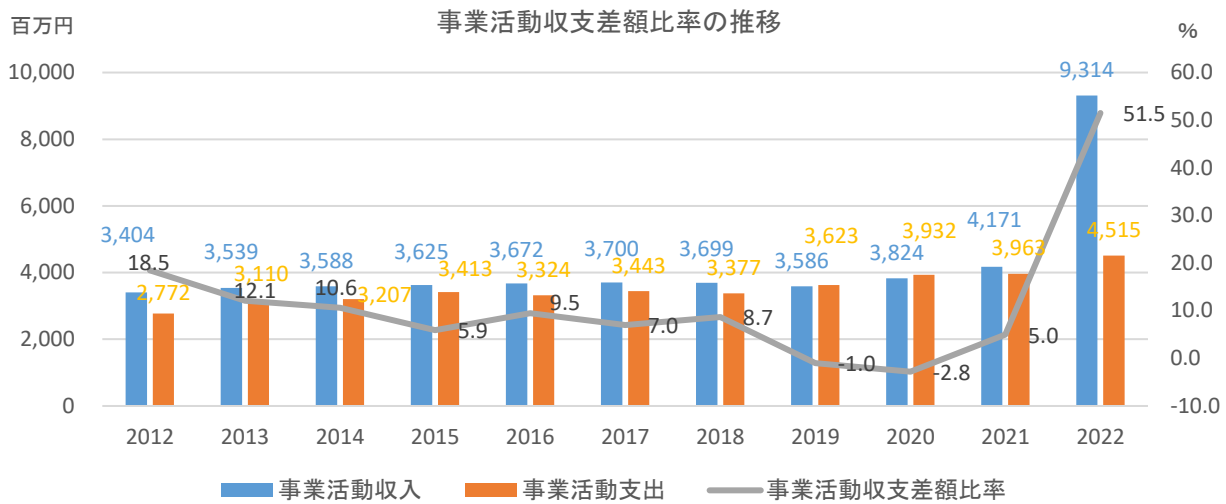
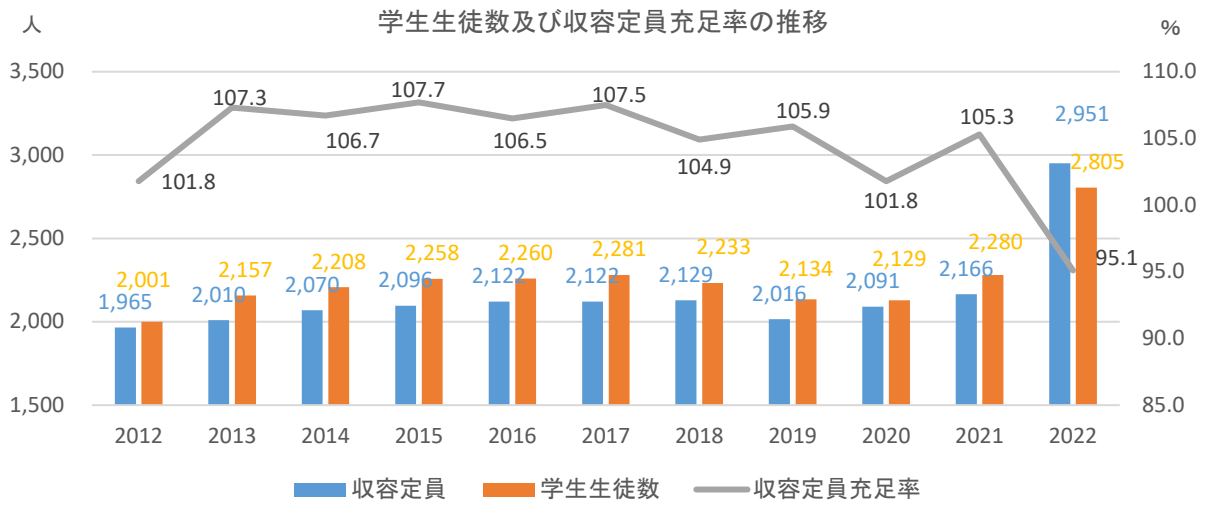
今後、2024～25年にかけて、大阪阿倍野キャンパスプロジェクト及びびわこ八日市キャンパスの施

## 第三 財務の概要

設整備計画、2027年度を最終年度とする藍野大学大学院 2 研究科 3 学部 6 学科 1 専攻科への改組転換など大きなプロジェクトが予定されています。AI・IoT の急速な技術発展、with コロナ時代など刻々と環境が変化する時代ではありますが、財的資源を多様な経営指標に基づき実態把握を行うことにより、経営計画や目指す姿を注意深く見極め、経営戦略の視点からの課題・目標を策定することで、教育資源（人的資源・物的資源・技術的資源）及び財的資源を効果的に活用し、積極的な将来への先行投資と財政収支の安定確保をコントロールしてまいります。

なお、本法人は、本法人とステークホルダーとのコミュニケーションを深化させ、本法人への理解と持続的な相互支援体制づくりを行うため、他大学に先立って 2019 年度から財務情報と教育や研究など、非財務情報の創出する価値等を「AINO VISION 2030 REPORT」として開示しています。引き続き、安定的な財政基盤を確立し、様々な協創を通じて地域社会に貢献できる学校法人として更なる発展を目指します。

# 第三 財務の概要



※2022年度に明浄学院高等学校を本法人の設置校としたことに伴い、数値が大きく変動しています。







**藍野大学**

〒567-0012 大阪府茨木市東太田4-5-4



**びわこリハビリテーション  
専門職大学**

〒527-0145 滋賀県東近江市北坂町967



**藍野大学短期大学部**

〒567-0018 大阪府茨木市太田3-9-25 (大阪茨木キャンパス)

〒584-0076 大阪府富田林市青葉丘11-1 (大阪富田林キャンパス)



**藍野高等学校**

〒567-0012 大阪府茨木市東太田4-5-11



**明浄学院高等学校**

〒545-0004 大阪市阿倍野区文の里3-15-7



〒567-0011 大阪府茨木市高田町1-22